

多角形墓室の構造と変遷

—— 唐末から元代を中心に ——

呉 心 怡

はじめに

唐末から元代は、9世紀末頃から14世紀中頃の時期にあたる。東アジア全域に強大な影響力を誇った唐は907年に滅亡し、中国は群雄割拠の局面となった。中原地域では主に5つの短命な王朝(五代:後梁、後唐、後晋、後漢、後周)が続き、南方地域ではいくつかの小国が乱立した(十国)。そして河北省・山西省北部より北では、契丹族が中原地域の混乱に乗じて遼王朝を建立した。中原・南方地域はやがて後周を継いだ宋によって統一され、北方の遼と相対した。12世紀にはいると、東北地域にいた女真族が南下して金を建て、遼を滅ぼして宋も淮河以南へと追いやった。13世紀には、モンゴル高原から南下したモンゴル族による元朝が成立し、金・宋ともに呑み込み、再び中国全土を統一した。唐末～元代は、漢民族と契丹族・女真族・モンゴル族など様々な民族が入り混じり、様々な文化の接触が発生した時期である。また唐から宋へと移り変わる際の社会的な変容の結果、経済が発達し裕福な平民が出現し、台頭した時期でもあった(秦大樹 2005)。

本稿で分析の対象とするのは、この時期に築造された多角形の墓室である。中国の塼室墓、石室墓など、墓内に一定の空間を持つ「室墓」は後漢の時期に登場した。主たる墓室(主室)と墓室に至る通廊からなる単室墓、および主室の他にも複数の墓室をもつ多室墓がある。その平面形は方形にはじまり、唐代の河北省・遼寧省などで円形のもの、そして唐末五代に多角形のものが出現した。多角形墓室の出現と連動するように、仏塔もまた唐代までは方形の仏塔が造られていたが、遼・五代以降は多角形の仏塔が出現し盛行した。唐末～元にかけての時期に「構造物を多角形に造る」という行為が広く浸透した背景に、何らかの社会的・思想的な変化が想定しうる。その背景を紐解いていくためには、各種の多角形構造物を通時的に分析し、相互に比較していく必要がある。本稿ではそのひとつとして発掘報告数の多い墓室を対象にすえ、今後のより広範な比較研究のための基礎的な分析を行った。唐末から元までの各時代における墓室の構造を整理し、その通時的な変遷を明らかにする。

なお、本稿では発掘報告の墓の名称に含まれている場合のみ「磚」表記を用い、その他の場合は「塼」表記を用いる。

1. 研究史と課題

1-1. 唐末～五代十国

唐末を含む五代十国の時期（9世紀末～北宋の成立まで）の墓制については、崔世平による北方地域（五代の諸王朝と北漢）と南方地域（北漢以外の十国）双方の墓を分析した体系的な研究がある。

崔世平は唐代の河北地域の墓制で成立した要素を「河北因素」と呼び、この「河北因素」が宋・遼、そして金や元にも影響を与えたとしている（崔世平 2022）。多角形墓室については、河北省唐山市徒河水庫晩唐墓群（河北省文管会 1958）で発掘された六角形の塼室墓・石室墓、および河北省張家口市宣化区で発掘された楊釵墓と張宗慶墓（張家口市宣化区文物保管所 2008a）を根拠に、多角形の室墓は唐末の河北地域で成立したものであり、河北地域の五代・宋・遼墓に受け継がれ、また山西省など河北以外の地域へと広まったとした（崔世平 2022）。多角形墓室は遼・北宋後期の11世紀中頃から急増するため、遼と北宋の時期に登場したと考えられていたが、唐末の河北地域に既に存在していたという点は、多角形墓室の登場と広まりを考えるうえで重要な指摘である。

1-2. 遼

遼では多角形墓室が多く発見されており、唐末の事例が公表される以前は、遼・北宋で多角形墓室が出現したと一般に考えられていた。その流行の時期、および他地域への波及の仕方について議論がなされている。

遼墓の研究において多角形墓室は、円形、方形に並ぶ墓の平面形分類のうちの一つとされる（董新林 2004）。多角形墓室の登場に遼墓の画期を見出す研究も多く、11世紀初めに長城以北・以南の地域に出現し、円形の墓室に変わって流行したとされる（今野 2003、秦大樹 2004、董新林 2004、黄小钰 2019）。流行の時期については、初め契丹大型墓で出現し、11世紀後半に入ってから中小型墓で造られるようになったという、墓の規模（＝被葬者の階層）による時間差が存在するという指摘もある（李逸友 1991、劉未 2016）。

また、林棟は複数の墓室から構成される多室墓の平面形状について主室、側室の形状と数量に基づいた分類を行っており、多角形墓室の側室もまた八角形と六角形のものが多い点を述べている（林棟 2019）。

1-2. 宋

宋は北宋と南宋に分かれるが、多角形墓室が発見されているのは長江以北の中原・北方地域のみのため、いずれも北宋時期の墓となる。北宋もまた一定数の報告事例があるため、墓室の構造

や被葬者像、動態について研究がなされている。北宋においても遼と同様に11世紀以降に流行したとされる点は特に重要である。

宋（北宋）において建国初期から用いられていたのは方形・円形の墓室であり、多角形墓室は11世紀の第3四半期頃に出現し、呼応するように斗栱などの組物を模した塼造の装飾部材、墓主の生前の室内における日常生活や墓主人図像、二十四孝などの壁画や塼彫も複雑で華やかになっていくとされている（陳朝雲 1994、秦大樹 2004、楊遠 2007）。

また、張保卿は、河南省中北部、河北省邯鄲市以南の宋墓を対象に、墓制における階層性について検討を行い、多角形墓室の多くは北宋中晩期の平民墓に方形とともに採用され、特に後期に流行したとする。主室のサイズについては北宋皇室の親王および一品官人の墓室の直径は5mより大きく、正四品以下は4mより地位小さく、平民墓は一般に3.5mを超えないなど、階層による墓室規模の規制についても指摘している（張保卿 2019）。

1-3. 金

金は女真族による王朝であり、女真族と漢民族の墓制の違いについて、早くから研究が行われていた。女真族は石材で構築した石槨墓を多用し、多角形墓室を含む塼室墓は領域内に暮らす漢民族、契丹族のものとされ（劉暁東ほか 1997、董新林 2014）、そのため女真族が多く居住する北方地域では発見例が少ない点が指摘されている（丁利娜 2009）。多角形墓室のうち、八角形墓室は河北、山西、河南にみられ、墓門は門楼式で墓の頂部は穹窿式のものや八角攢尖式のものがあること、六角形墓室は河北、山西、山東にあり、墓門は門楼式と券門式の双方がみられ、多くは持ち送り攢尖頂を持つなど、構造的な特徴が整理されている（陳相偉 1997）。被葬者像については、裕福な商人や地主が多く、墓内の壁面の装飾は被葬者の経済状況に比例するとされる（秦大樹 1997）。また、かつて遼の支配下にあった燕雲地域の八角形墓室については、金建国初期は遼墓の伝統を受け継いで築造されるものの、12世紀半ば以降から13世紀にかけては方形単室石墓や円形洞室墓、土坑石槨墓などが増えたために減少し、13世紀以降に再び築造されるようになるとの見解が示されている（盧青峰 2008）。

1-4. 元

元は金と南宋を滅ぼし、北方地域、中原地域、南方地域の全てを統治下においた。この時期の多角形墓室は山西地域で多く発見され、その他の地域ではあまり見られない。

秦大樹は、元墓の全体像について北方地域（長江以北）は金代からの変動がみられる一方で、南方地域（長江以南）は南宋の墓制を引き継いでおり、前時代からの変化が少ない点を指摘した（秦大樹 2004）。そのなかで多角形墓室についても言及しており、元の前期では金墓の影響が残り、円形・方形と並んで壁面の装飾の乏しい簡素な多角形墓室が造られ、後期になるとさらに墓室の

簡素化が進み、見られなくなっていくとしている。

元代においても金代と同様に、元初から多角形墓室が存在し、数量は減少しながらも山西省を中心に継続的に構築されている様子がうかがえる。

1-6. 研究の課題と本稿の目的

多角形墓室はいずれの時期の研究においても一定程度の注目がなされており、唐末五代に登場して遼・宋（北宋）で流行し、金代に墓室壁面の装飾などが華美になっていき、元代で簡素化するといった大まかな流れが想定できる。しかしながら、各時期・地域における多角形墓室の有無、および華美か簡素かという2つの視点でのみ語られ、墓室の分類もまた十角形、八角形や六角形という平面形の分類に留まっている。また研究が時代ごとに分かれており、通時的な変化を十分に把握できていない状態にある。「どのような平面・立面形状のものが、どの時期に造られていたのか」という基礎的な点をまずは整理する必要がある。

本稿では、唐末から元にかけての多角形墓室を悉皆的に収集し、主たる墓室（主室）の各部位の法量を抽出・計測した。各時期の墓室の立面の細かな構造を合わせて検討することで、従来よりも詳細な構造と変遷を明らかにし、多角形墓室の全体像を描き出すことを目的とする。

2. 分析の方法と対象

2-1. 分析の方法

本稿では塼室墓・石室墓などの室墓のうち、主たる墓室が多角形のものを扱う。なお、複数の墓室をもつ多室墓で全ての墓室が多角形の場合があるが、本稿では主室のみを分析対象とした。立面形状の分析を行うため、主室の壁部が残存しているものを中心とし、平面形状のみ判明しているものを補助的に用いる。

立面的な形状については、主室の規模の如何に関わらず比較が可能となるように、まず主室の壁部の高さ \div 奥行 \cdot 横幅の比率、および主室全体の高さと奥行との比率を計算し、奥行 \cdot 横幅の長さをそれぞれ1とした際の壁部の高さを算出した。

「壁部の高さ \div 奥行 \cdot 横幅 >0.50 」の場合は、「主室の壁部の高さが奥行 \cdot 横幅の長さの1/2より大きい」ことを示し、これを「A」とした。反対に「 ≤ 0.50 」の場合は、「主室の壁部の高さが奥行 \cdot 横幅の長さの1/2以下」であり、「B」とした。主室の平面形状によっては奥行と横幅の長さに差異が生じるため、奥行 \cdot 横幅の双方で同様の計算を行い、どちらか一方の値が「 ≤ 0.50 」であれば、「B」とした。

また主室全体の高さと奥行についても比率を計算した。「主室全体の高さ（全高） \div 奥行 >1 」の場合は、主室全体の高さが奥行より大きく、主室の立面形状として細長く、上方向の空間が広い。「 ≤ 1 」の場合は、主室全体の高さが奥行より小さく、主室の立面形状として太低く、横方

向の空間が広がる。

次に立面の一要素として、塼造の組物部材に着目した。中国の発掘報告では「倣木構」と呼ばれる、木造建築を模した墓内の装飾部材である。主な部位としては柱、梁、組物・中備、軒、屋根などがあり、本稿では壁部と頂部の境に配される組物から屋根にかけての部分（本稿では「組物部材」と呼ぶ）について、部材の有無、位置、全体の高さに占める割合を整理した。

また、平面的な形状については、構造の特徴によって、主室の入り口にあたる面の墓壁を構築し、墓壁に甬道が接続する「平面形状 a」、および主室の入口にあたる面の墓壁を構築せず、入口の左右壁が直接甬道に接続する「平面形状 b」の 2 種類に分類した。

主室には「塼彫」による装飾や壁画が描かれている場合がある。「塼彫」とは、塼を加工して立体的に図像を表したものであり、型抜きした塼に彫刻で仕上げ加工を施しているものが多い。図 1-2 の③に示した 6 つのパターン、「(i) 墓道、天井、甬道などに行図、奏楽、門吏、侍従など」、および主室内の奥壁の内容をもとに「(ii) 奥壁が門」「(iii) 奥壁が婦人啓門」「(iv) 奥壁が墓主夫婦」「(v) 奥壁が山水、花鳥」「(vi) 奥壁が寝室」に分けた。

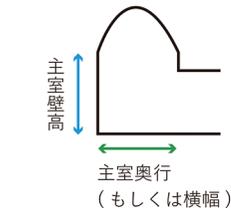
2-2. 分析の対象

本稿で分析の対象とするのは、唐末五代、遼、宋、金、元の領域内で造られた多角形の墓室であり、考古学系の雑誌に掲載された発掘簡報や発掘報告書より唐～元を合わせて 200 例を収集した。

① 立面形状の分類

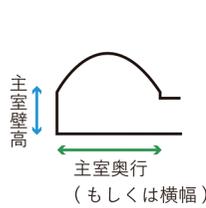
・立体的なプロポーションについて

A. 主室壁高が
主室奥行・横幅の 1/2 より大きい



主室壁高
奥行の 1/2

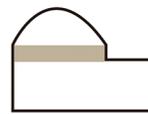
B. 主室壁高が
主室奥行・横幅の 1/2 以下



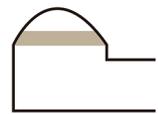
主室壁高
奥行の 1/2

・倣木造建築部材（組物部材）について

(I-1) 壁部に
塼造の組物部材



(I-2) 頂部に
塼造の組物部材



(II) 組物部材なし

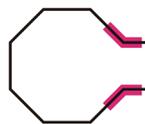
② 平面形状の分類

平面形状 a



主室の入口にあたる面の
墓壁を構築し、墓壁に甬
道が接続する

平面形状 b

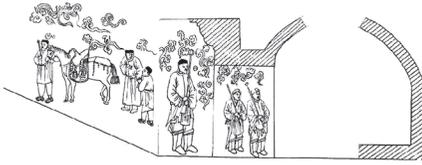


主室の入口にあたる面の
墓壁を構築せず、入口の
左右壁が直接甬道に接続する

図 1-1 唐末～元の多角形の主室の分類項目

③墓道、奥壁の壁画・塼彫装飾のモチーフの分類

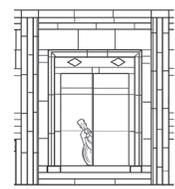
(i) 墓道、天井、甬道などに行図、奏楽、門吏、侍従など



(ii) 奥壁が門



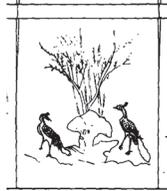
(iii) 奥壁が婦人啓門



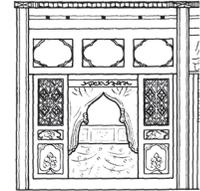
(iv) 奥壁が墓主夫婦



(v) 奥壁が山水、花鳥



(vi) 奥壁が寝室



※壁画はそれぞれ (i) 赤峰市敖漢旗韓家窩鋪遼墓 M2 の西壁側、(ii) 河南新安県梁庄北宋壁画墓の北壁、(iii) 山西洪洞西孔村元代地震紀年墓の北壁、(iv) 山西汾陽東屯觀宋金墓 M6 の南壁、(v) 登封王上壁画墓の北壁、(vi) 汾陽金墓 M2 の北壁

図 1-2 唐末～元の多角形の主室の分類項目

唐末は河北省に 4 例、遼は内蒙古自治区、遼寧省、河北省、山西省に 94 例、宋は河北省、河南省、山西省、江蘇省、湖北省に 30 例、金は内蒙古自治区、遼寧省、山西省、河南省、陝西省に 41 例、元は内蒙古自治区、河北省、山西省、河南省、陝西省に 31 例となっている。なお、宋の多角形墓室は長江以北の地域で見つかっており、時期は全て北宋となる。各例の詳細なデータについては表 1 にまとめ、本稿の最後に付した。

3. 各時期の多角形墓室の分析

3-1. 唐末五代の多角形墓室

唐末から五代にかけての多角形墓室は報告例が少なく、河北省の張家口市宣化地区に 2 例（張家口市宣化区文物保管所 2008）、唐山市に 2 例（河北省文管会 1958）の 4 例となっている。このうち張慶宗墓は乾符四年（877年）、楊釵墓は乾符六年（879年）と墓誌を伴っており、被葬者が唐末に亡くなったことがわかる。

張慶宗墓のみ平面形が八角形であり、他はいずれも六角形である。唐山市徒河水庫劉莊第 7 号磚墓はやや横長の六角形、唐山市徒河水庫劉莊第 3 号石墓は縦長の六角形となっている。

張慶宗墓と楊釵墓は主室の奥行が 4 m ほどであり、やや大型の墓室となっている。両者ともに頂部は崩落しているものの、壁部が一部残存しており、組物から屋根部分にかけての倣木造建築部材（以下、組物部材）が造りつけられている。壁面の装飾には門、窓、椅子、灯檠、衣架などのモチーフが採用されており、楊釵墓では奥壁に塼彫で門があしらわれている。

多角形墓室の構造と変遷

唐山市徒河水庫劉莊第7号磚墓は壁部がほぼ完存しており、壁高を1としたときの奥行は0.53、横幅は0.42であった。総合的にみると、この主室は「B.壁部の高さが奥行・横幅の長さの1/2以下」のタイプとなる。

唐末五代の時期は多角形墓室の事例が極めて少ないが、唐末の時期には既に正八角形、正六角形に近い端正な形状の奥行4m級の多角形墓室が出現しており、また一方で形が崩れたものも存在する。立面形状としては、壁部の高さが奥行・横幅の1/2以下と低めであり、壁部に組物部材をもつ。主室奥壁の図像は門が描かれる。

3-2. 遼代の多角形墓室

遼代の多角形墓室は94例が報告されており、八角形が69例、六角形が23例、十角形が2例で、八角形墓室が最も多い。主室の奥行が9mや8mほどの大型のものは皇帝の陵墓である慶中陵、慶西陵のものに限られ、その他は6m級～1m級まで幅広く分布する。なかでも八角形墓室は4m～3m級、六角形墓室は2m級に集中している。

八角形の主室の69例のうち、壁部以上が残存しているのは52例である。これらについて、主室壁高と主室奥行・横幅の比率を計算し、立体的な形状に基づいて分類した。

「A.主室壁高が主室奥行・横幅の1/2より大きい」ものは4例あり、このうち詳細な記載や図面があった2例はいずれも壁部に塼造の組物部材を有するタイプ(I-1)であった。例として示した宣化遼墓M6(河北省文物研究所2001)は、北宋との国境近くの河北省宣化地域に位置しており、墓誌から漢民族の裕福な平民であることが判明している。

他方、「B.主室壁高が主室奥壁または横幅の1/2以下」は48例ある。組物部材を持つのは(I-1)遼寧凌海市鄭家窩鋪遼代画像石墓M3、(I-2)寧城県埋王溝遼代墓地M1の各1例ずつである。遼寧凌海市鄭家窩鋪遼代画像石墓M3は石板を組み合わせて構築された画像石墓であり、組物部材は八つの角に配置される石柱と一体に造られ、大斗のみの極めて簡素なものとなっている。寧城県埋王溝遼代墓地M1は塼室墓で、墓室の壁部から頂部へ切り替わる位置から組物部材を配しはじめ、大部分を頂部に組み込んでいる。柱は壁画で描かれており、組物部材のみ塼造であった。宣化遼墓M6と比較すると、斗拱の造型がやや粗雑である。

B類の大多数は塼造の組物部材を持たない(II)であり、内蒙古自治区と遼寧省に46例ある。このうち、平面形の特徴からある程度まとまった数の平面形状b(以下、b)タイプが見いだされた。(b)は墓室入口の墓壁部分を構築せず、入口左右の壁が直接甬道に連結するもので、遼の八角形墓室に多くみられる構造である。この地域の墓室に特徴的な構造物として、墓壁と隙間なく構築されて室内を覆う木槨がある。この木槨が墓室から甬道まで一体的に造られるようになるにつれて、塼造の墓壁部の構造も各部位を省略するようになっていき、墓全体が一体的に構築されるようになる過程で(b)が生まれたと考える。遼の皇帝陵で八角形の主室をもつ慶中陵は(a)、

慶西陵は (b) となっており、慶中陵が慶西陵に先んじて築造された可能性が極めて高い(田村・小林 1952) ことから、(b) が新しく登場したことがうかがえる。また遼寧朝陽市水泉遼墓は墓誌により年代が判明しているが、M10 (1097年) は (b) であるのに対し、ほぼ同時期に造られた M1 (1099年) は (a) であることから、(a) もまた新しい時期まで継続して造られており、(a) と (b) は共存していたことが分かる。

六角形の主室の23例のうち、壁部以上が残存しているのは17例であり、主室に対して壁部の高さが1/2より大きい A 類は8例、1/2以下の B 類は9例ある。

A 類のうち組物部材をもつ (I-1) は5例あり、いずれも河北省に位置する。残りの組物部材をもたない4例の (II) は内蒙古自治区にある。やや特殊な例として敖漢旗范仗子遼墓 M101 (内蒙古自治区文物工作隊1984) があり、地中に横穴を穿つ土洞室墓となっている。壁高と奥行・横幅の比率が「1:0.89」と極端な数値になっているが、磚や石という建材の制約がないために生まれた形状と考える。

B 類はほとんどが磚彫の組物部材を持たない (II) であり、内蒙古敖漢旗皮匠溝1号墓 (内蒙古赤峰市敖漢旗博物館 1998) のみ壁部に組物部材を配している。この例は主室の壁部が奥行に比して極めて低く、河北地域に分布する組物部材をもつ墓とは形状が大きく異なっており、内蒙古地域、遼寧地域に多くみられる立面形状と、河北地域にみられる倣木造建築部材が融合した構造をしている。

十角形の主室は2例あり、耶律弘世墓と遼寧朝陽市水泉遼墓 M2 である。いずれも墓室の崩落が激しく、立面形状の分析はほぼ行うことが出来なかった。耶律弘世墓は慶陵の陪葬墓であり、被葬者の耶律弘世は興宗の子にあたる。墓の主室は奥行6m級と皇帝陵に次いで大きい。遼寧朝陽市水泉遼墓群は北漢(五代十国時代に山西省北部を支配していた小国)の皇族の末裔である劉氏一族の墓地であり、M2のほかに八角形墓室のM1、M10が報告されている。M2はB類の平面形(a)であり、主室規模は3m級で他2基と比較して僅かに小さい。十角形墓室は平面の形状が整っており、同時期には八角形墓室も多く造られていて、技術的な要因から十角形になったとは考え難い。特に耶律弘世墓は陪葬墓としての墓の位置も慶東陵(平面形は円形)、慶中陵(平面形は八角形)という2つの皇帝陵の中間に造られていることから、円形と八角形を併せ持った形状として十角形をあえて選択した可能性が想定しうる。

主室全体の立面形状をみると、主室が完存している43例のうち「主室の高さ>主室の奥行」は2例、「主室の高さ≤主室の奥行」は41例となった。割合として、主室の高さが奥行の長さより小さいものが大多数であり、墓室の空間として、床面は広く造られながらも全体の高さは抑えられている傾向がある。

主室の壁面装飾については、壁画を有する墓が27基あり、奥壁(i)～(v)のパターンがみられた。傾向としては、内蒙古や遼寧に位置するやや大型の多角形墓室は主室で壁画が発見されて

おらず、(i) の墓道から甬道にかけて出行図、門吏、侍従などを描くものが多くみられた。これらは実際に車列を組んで外出する機会を有する契丹の貴族や官人のものと推測される。一方で小型墓は奥壁に (iv) 墓主人夫婦を配するのが1例、(ii) 門や (iii) 婦人啓門（半開きの門から半身を出した女性の図像）が3例、(v) 山水・花鳥などが6例であった。

3-3. 宋代の多角形墓室

宋の多角形墓室の30例はいずれも長江以北の地域に位置しており、時期的にはすべて北宋のものとなる。30例のうち、平面形状が八角形のもは21例、六角形は9例であり、主室の規模は3m級以下の小型墓に限られる。両者ともに2m級の例が最も多い。

八角形の主室21例で壁部が残存しているものは20例、そのうち「A. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2より大きい」ものは17例、「B. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2以下」は3例とAの方が圧倒的に多く、遼の立面形状の傾向とは真反対となっている。

「A. 主室壁高が主室奥行または横幅の1/2より大きい」で (II) 組物部材をもたないのは河南省に位置する登封王上壁画墓の1例のみである。この墓は宋墓のなかでも特殊な壁画で室内が装飾されており、「升仙図」、「論道図」、「鶴と祥雲」など道教的なモチーフが多くみられる（鄭州市文物工作隊 1994）。その他の16例は全て (I) 組物部材を有するタイプであるが、組物部材の位置によって、(I-1) 壁部に組物部材、(I-2) 頂部に組物部材の2種類に細分できる。

(I-1) は9例、(I-2) は7例と、ほぼ同じ比率で北宋の域内に出現している。傾向として、(I-2)の方が主室の高さに占める組物部材の割合が大きい点があげられる。特に組物部材が30%を占めるものは全て、頂部に配置されている。宋の多角形墓室は大多数が壁面に壁画や塼彫などの装飾を行っており、壁部は図像と組物部材の空間の取り合いとなる。そのため、組物部材を頂部に移すことで、壁部の図像も組物部材も大きい面積で構成できるためと推測する。

「B. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2以下」は3例のみであり、(I-1)、(I-2)、および (II) が1例ずつとなっている。(II) の山西忻県北宋墓（馮文海 1958）は北宋の官人の墓であり、平民墓が多いとされる北宋の多角形墓室では珍しい事例である。八角形という形状は採用したものの、官人の墓の規定（張保卿 2020）に従って、組物部材等の装飾要素はもたない簡素な墓を築造したのがうかがえる。

六角形的主室9例は壁部がある程度残っており、いずれも組物部材を有する。このうち5例がA類となり、(I-1) は2例、(I-2) は3例となる。B類は4例あり、いずれも (I-2) であった。BI-2類の河南登封唐庄宋代壁画墓 M3 は「主室壁高：奥行・横幅=1：0.47」とB類であるものの、組物部材を頂部に配置した結果、頂部が長大になり、全体の立面形状としては細高い。

主室全体の立面形状としては、完存している22例のうち「主室の高さ>主室の奥行」は19例、「主室の高さ≤主室の奥行」は3例であり、宋の多角形墓室は空間が上方向に広くとられる傾向

がある。

主室壁面の装飾は30例中の26例で報告されており、(ii) 奥壁に門と (iii) 奥壁に婦人啓門が23例と圧倒的に多く、(iv) 奥壁に墓主夫婦が2例、(v) 奥壁に山水・花鳥が1例（先述の登封王上壁画墓）であった。遼墓にみられる出行図は採用されておらず、奥壁以外の壁面も墓主の生前の日常生活を象徴する図像が主となっている。

北宋は遼と同時期に存在していながらも、主室の立面形状や壁画のモチーフなどについて、大きな差異があることが判明した。

3-4. 金代の多角形墓室

金の多角形墓室は41例あり、平面形状が八角形のは30例、六角形は11例であり、すべて3m級以下の小型墓である。両者ともに2m級に集中している。

八角形の主室30例で壁部が残っているものは29例あり、「A. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2より大きい」ものは23例、「B. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2以下」は6例と宋と同様の傾向を示している。

金のA類はいずれも倣木造建築部材を有し、(I-1)の壁部に組物部材をもつ主室は22例、(I-2)の頂部に組物部材をもつ主室は2例であった。宋と比較して、(I-2)類の減少が顕著にみられた。

B類は6例とやや少なく、(I-1)が4例、(I-2)が1例、そして(II)の組物部材をもたないものが1例あった。内蒙古敖漢旗英鳳溝金代墓地M1は内蒙古自治区に位置しており、遼の多角形墓室の大多数を占めたBII類と同じ構造をしている。この墓が金代の初期に築造され、地域に伝わる形態的な特徴を引き継いでいることが分かる。

六角形の主室11例で壁部が残っているのは10例でA類は8例、B類は2例で、いずれも組物部材を壁部に有する。

主室全体の立面形状としては、完存している33例のうち「主室の高さ>主室の奥行」は28例、「主室の高さ≤主室の奥行」は5例であり、宋の多角形墓室と同様に空間が上方方向に広い例が多い。

壁面の装飾については24例が報告されており、(ii) 奥壁に門と (iii) 奥壁に婦人啓門が10例、(iv) 奥壁に墓主夫婦が7例、(vi) 奥壁に寝室が2例、(v) 奥壁に山水・花鳥が1例、奥壁が耳室の入り口となっている事例が4例であった。宋と比較して、奥壁に墓主夫婦を配するパターンが増加しているのが分かる。また、奥壁に寝室という新たな配置や主室から耳室につながる例が出現した。

金は基本的に宋と同様の傾向を示しつつも、(I-2)の組物部材を頂部に造る構造の減少、壁面装飾における(vi) 奥壁に墓主夫婦の増加、主室に耳室をもつ例の出現など、新たな傾向もみられた。

3-5. 元代の多角形墓室

元の多角形墓室は31例あり、八角形が21例、六角形が10例である。主室の規模は両者ともに2m級に集中しているものの、河北省の石家庄市後太保元代史氏墓群 M1は5m級、M3は4m級とやや大型のものも報告されている。M1は元の宰相である史天澤の墓であり、史氏墓群は一族の家族墓地である（河北省文物研究所 1998）。元代に入ると、再び宰相のような高位の官僚も多角形墓室を築造するようになったことがえる。

八角形の主室はすべて壁部が残存しており、「A. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2より大きい」ものは10例、「B. 主室壁高が主室奥行・横幅の1/2以下」は11例と半々の割合となった。A類は10例のいずれも（I-1）壁部に組物部材をもつタイプである。また、これらの組物部材について金の時期のものと比較をすると、斗栱などの部品は簡素になっているものの、主室の高さに占める組物部材の割合については大きな変化はみられなかった。B類は1例を除き、（I-1）となっている。宋から金にかけての（I-2）頂部に組物部材を配置する事例はなかった。

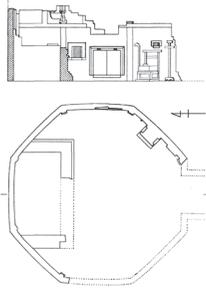
六角形の主室の8例はいずれもB類に属し、（I-1）は6例、（II）は内蒙古自治区に2例だけみられる。

主室全体の立面形状としては、完存している19例のうち「主室の高さ>主室の奥行」は13例、「主室の高さ≤主室の奥行」は6例であり、宋・金の多角形墓室と同様に上方向に空間の広い主室が多いものの、前時代ほど極端ではなく横方向の空間が広い主室もある。

主室の壁面装飾は31例中の11例が報告されており、（ii）奥壁に門と（iii）奥壁に婦人啓門が3例、（iv）奥壁に墓主夫婦が4例、（v）奥壁に山水・花鳥が5例と、宋墓で圧倒的な割合を誇った門モチーフが減少し、墓主夫婦と山水・花鳥が増加している。

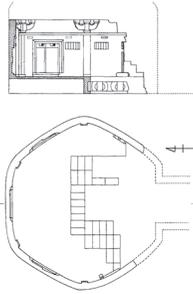
1. 唐末の多角形墓室

【八角形】

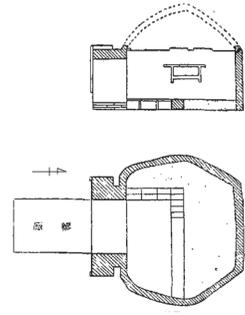


河北宣化張慶宗墓

【六角形】



河北宣化楊勅墓



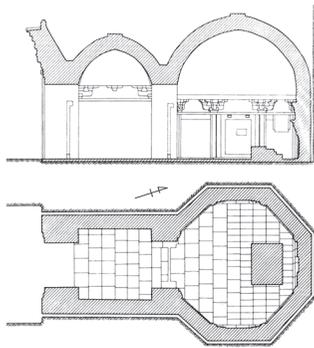
唐山市徒河水库劉莊唐第7号磚室墓

2. 遼の多角形墓室

【八角形】

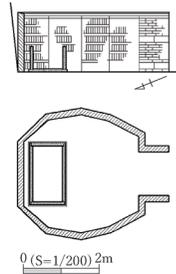
A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材

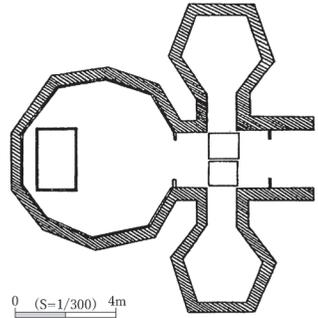


宣化遼墓 M6

【十角形】



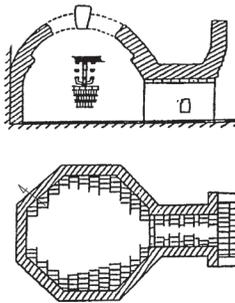
遼寧朝陽市水泉遼墓 M2



耶律弘世墓

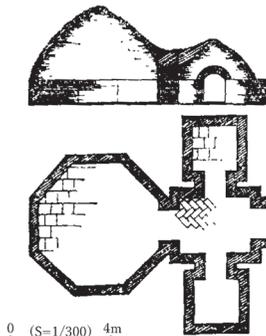
B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

(I-2) 頂部に磚彫の組物部材



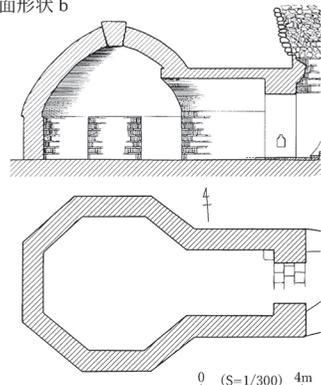
寧城県埋王溝遼代墓地 M1

(II) 磚彫の組物部材なし
平面形状 a



遼寧阜新遼肅僮墓

平面形状 b



関山遼墓 M1

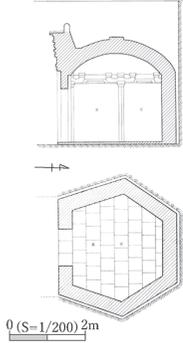
図2-1 唐末～元における多角形墓室の構造

多角形墓室の構造と変遷

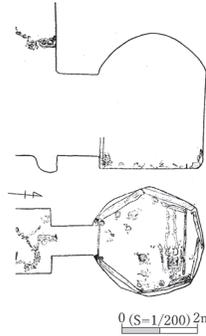
【六角形】

A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

(I-1) 壁部に磚彫組物部材 (II) 磚彫の組物部材なし



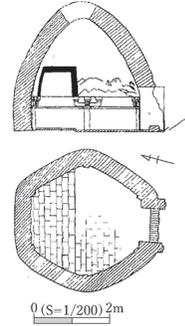
宣化遼墓 M2



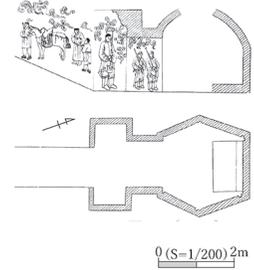
敖漢旗范仗子遼墓 M101

B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

(I-1) 壁部に磚彫組物部材 (II) 磚彫の組物部材なし



内蒙古敖漢旗皮匠溝1号墓



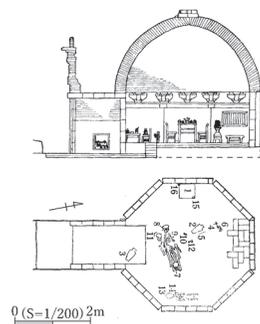
赤峰市敖漢旗
韓家古鋪遼墓 M2

3. 宋の多角形墓室

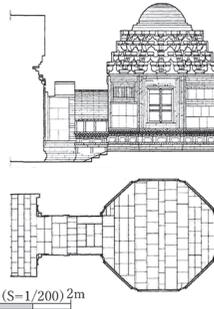
【八角形】

A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

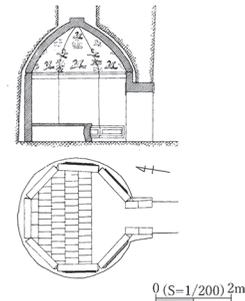
(I-1) 壁部に磚彫の組物部材 (I-2) 頂部に磚彫の組物部材 (II) 磚彫の組物部材なし



河南安陽新安庄西地宋墓 M44



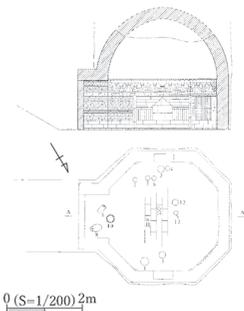
新安県石寺李村北宋宋四郎磚彫壁画墓



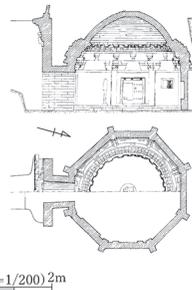
登封王上壁画墓

B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

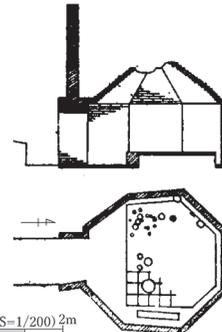
(I-1) 壁部に磚彫の組物部材 (I-2) 頂部に磚彫の組物部材 (II) 磚彫の組物部材なし



南京市太新路宋墓



河北平山県兩岔宋墓 M2



山西忻県北宋墓

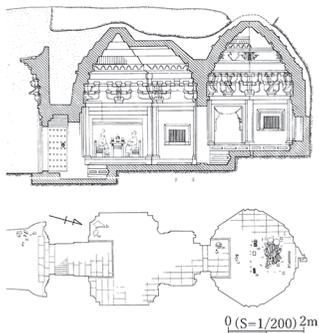
図2-2 唐末～元における多角形墓室の構造

【六角形】

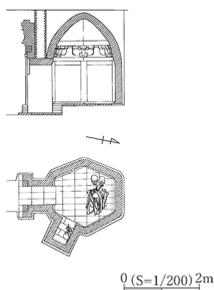
A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材

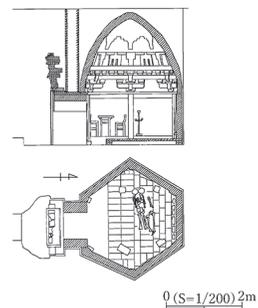
(I-2) 頂部に磚彫の組物部材



白沙宋墓 M1



河南登封唐庄宋代壁画墓 M2



河南登封唐庄宋代壁画墓 M3

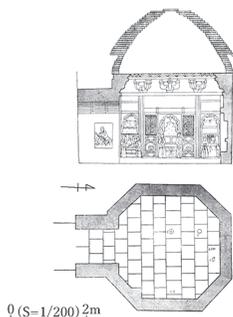
4. 金の多角形墓室

【八角形】

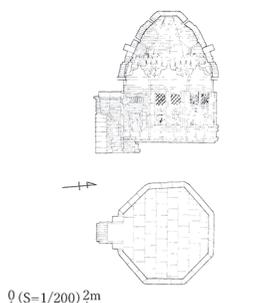
A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材

(I-2) 頂部に磚彫の組物部材



山西下吐京金墓



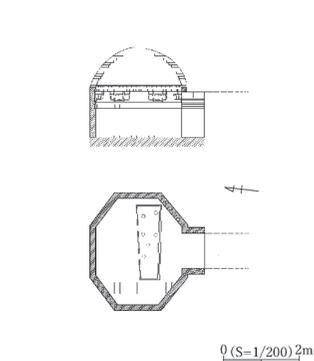
洛陽道北金代磚彫墓 IM1719

B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

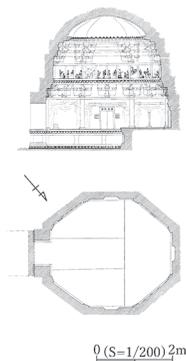
(I-1) 壁部に磚彫の組物部材

(I-2) 頂部に磚彫の組物部材

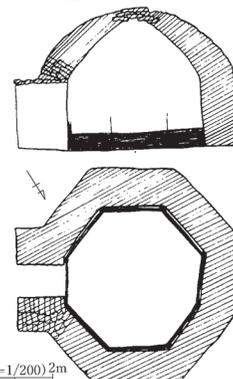
(II) 磚彫の組物部材なし



尖草坪区東張村金代墓群 M3



山西沁県金墓



内蒙古敖漢旗英鳳溝金代墓地 M1

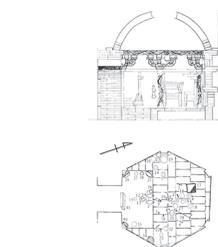
図2-3 唐末～元における多角形墓室の構造

多角形墓室の構造と変遷

【六角形】

A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

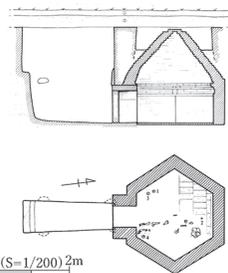
(I-1) 壁部に磚彫の組物部材



遼寧朝陽市金代紀年墓葬 M1

B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材



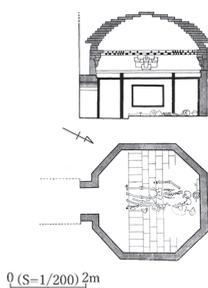
山西汾陽東竜観宋金墓 M14

5. 元の多角形墓室

【八角形】

A. 主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい

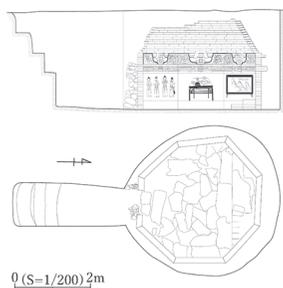
(I-1) 壁部に磚彫の組物部材



山西孝義梁家庄元墓

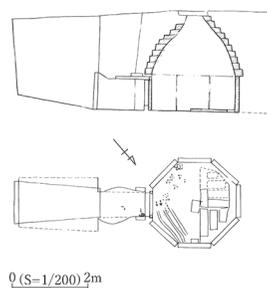
B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材



山西朔州官地元墓

(II) 磚彫の組物部材なし

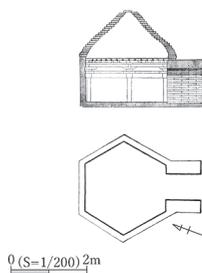


陝西横山羅圪台村元代壁画墓

【六角形】

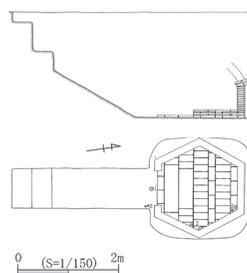
B. 主室壁高が奥行・横幅の1/2以下

(I-1) 壁部に磚彫の組物部材



山西孝義下吐京元墓

(II) 磚彫の組物部材なし



多倫県砧子山西区墓地 DZXM11

図2-4 唐末～元における多角形墓室の構造

4. 通時的な比較分析

4-1. 多角形墓室の規模の比較

多角形墓室の奥行を基準として1m単位で区切り、各時期の規模の比較を行った。なお十角形墓室は2例のみのため、この分析からの対象とはしていなかった。

図3の赤枠部分は、各時期の八角形と六角形に造られた主たる墓室のうち最も多くの事例の報告があった規格を示している。遼の八角形墓室のみ4m～3m級に集中域があり、その他は2m級に集中し、元になると小型化が進み1m級の六角形墓室も大きな割合を占めるようになる。

時期ごとにみていくと、6m級、および7m級以上の極めて大規模な主室は遼でのみ造られたことが分かる。遼の大型墓は大多数が八角形を平面形として採用しており、遼の皇族、貴族階層における八角形の流行がうかがえる。一方で宋、金では多角形墓室は3m級以下の小型のものに限られる。宋（北宋）については皇族の埋葬施設の調査が行われており、元徳李后陵（宋太宗の皇后、1000年改葬）は主室の平面形状が円形で直径7.95m、宋魏王趙頴夫婦合葬墓（宋の皇族、1094年）は同様に円形の主室で直径6.54mであることが判明している（河南省文物研究所ほか1988、周到1964）。いずれも遼に匹敵する大規模な主室であり、宋（北宋）は高位の被葬者については遼と同等の大型墓を築造したものの、多角形を主室の平面形状として採用していなかったことが分かる。宋金の多角形墓室は被葬者が位の低い人物であったため、小規模なものに限られていた。そして元代になると、報告されているのは1例ずつではあるものの、再び5m級や4m級の大規模な主室が出現するようになる。この墓の被葬者は宰相という高級官僚とその家族のものであり、高位の人物も多角形墓室を採用するようになった。社会的身分と埋葬施設の形状の関連性が弱まっている様相が推察できる。また、唐末も主室が4m級のものがあり、最初期はそれなりに高位の人物が築造していた。

八角形と六角形を比較すると、唐末～元を通じて八角形の報告例が六角形の数倍多く、かつ主室規模が大きいものが存在する。当時の人々に八角形を上位とする意識があったと推測できる。

4-2. 多角形墓室の分布

唐末から元にかけての多角形墓室の分布を図4に示した。遼（青マーク）では、多角形墓室の分布が内蒙古・遼寧地域と河北北部地域の2つに分かれており、宋（赤印マーク）は河南省および遼との国境に近い山西省中部あたりにまとまった分布がみられ、また長江近くの湖北省や江蘇省でも発見されている。金（黄マーク）、元（緑マーク）になると分布範囲は狭まり、大多数が山西省の事例となる。遼代に盛んに築造されていた内蒙古自治区・遼寧地域、および河南省での事例も減少する。多角形墓室は長江を超えることはなく、基本的に中原地域の墓制として遼・宋以降に続いていくことが分布の変遷より推測できる。

多角形墓室の構造と変遷

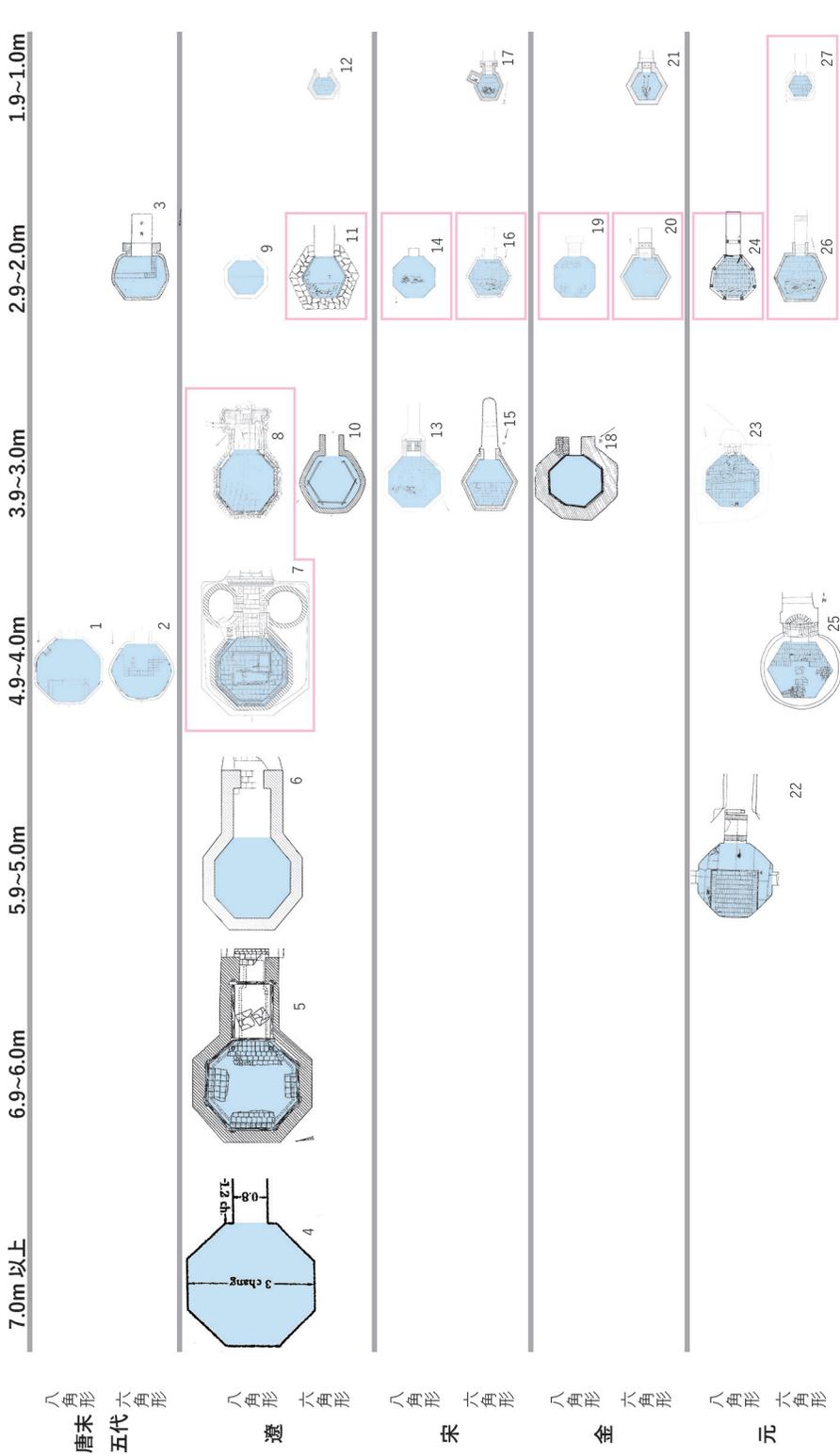


図3 唐末～元における多角形墓室の規模の比較

1. 河北宣化楊柳墓、3. 唐山市陡河水库劉庄唐墓 M7、4. 慶中陵、5. 赤峰寧城县福峰山遼墓、6. 閩山遼墓 M1、7. 遼寧康平張家窯林場長白山I区2号遼墓、8. 赤峯大高鋪遼墓、9. 敖漢旗七家遼墓 M4、11. 阿魯科爾沁旗柴達木遼墓、12. 敖漢旗下灣子遼墓 M5、13. 河南新蔡縣梁庄北宋墓 M15、14. 溫州宋墓、15. 河北平山具西岔宋墓 M1、16. 榮陽司村宋代壁面墓、17. 河南登封唐庄宋墓、18. 內蒙古敖漢旗英鳳溝金代墓 M1、19. 山西汾陽東電觀宋金 M2、20. 山西汾陽東電觀宋金 M3、21. 山西汾陽東電觀宋金 M5、22. 石家莊市後太保元代史氏墓群 M1、23. 河北涿州元代壁面墓、24. 古交市河下村元墓、25. 山西芮城永樂宮旧址潘德沖墓、26. 山西隰縣子山西區墓地 DZX M11 ※7.0~5.0mの多室墓は主室のみ掲載、いずれも縮尺：S=1/500

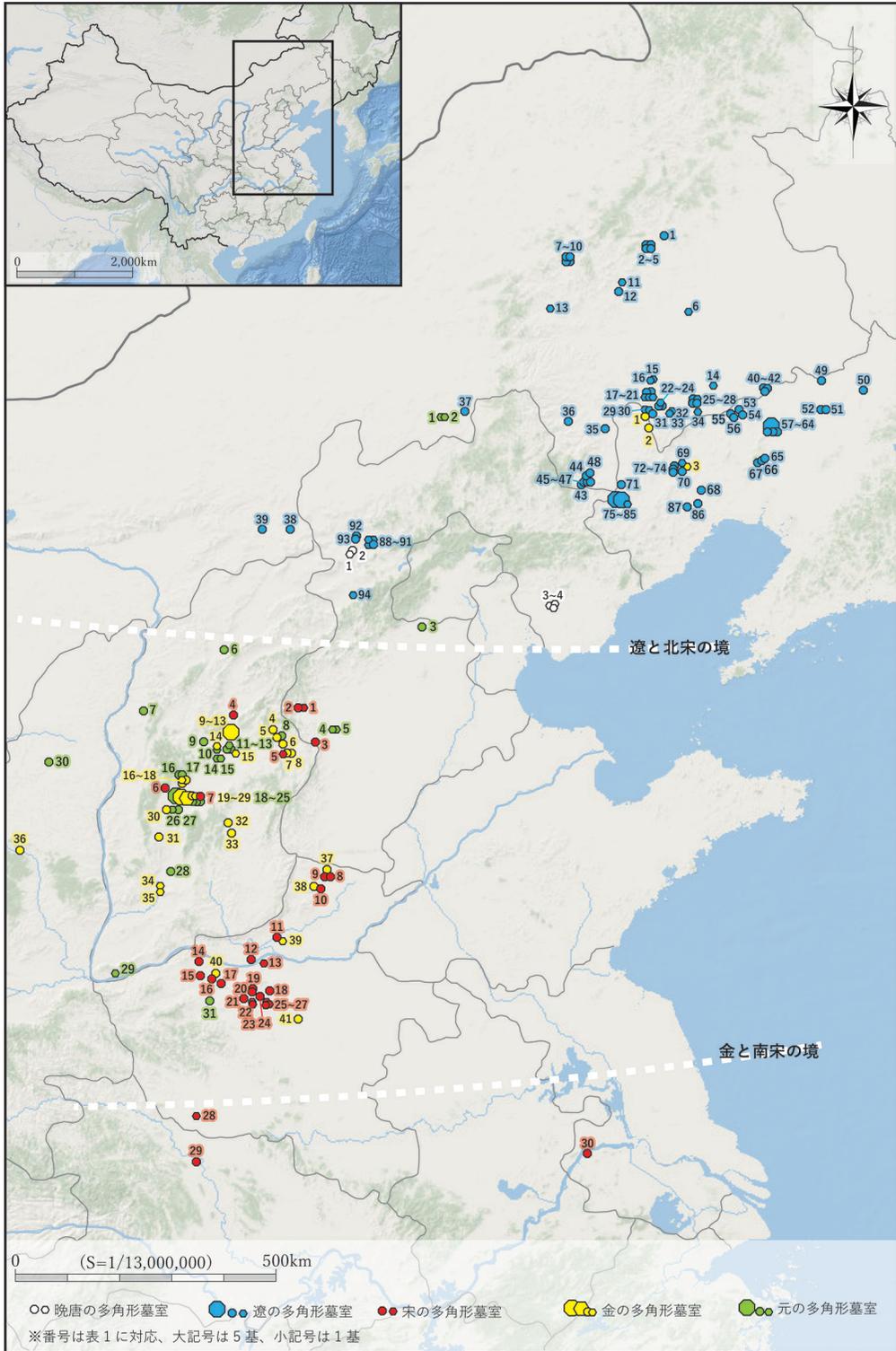


図4 唐末～元における多角形墓室の分布

5. 唐末・遼・宋・金・元における多角形墓室の変遷

まず、多角形墓室は唐末の河北省の宣化地域で既に出現しており、主室の平面形状が正八角形、正六角形に近いもの、および崩れたものが存在していた。主室規模が4 m級のものを築造しており、被葬者も一定の身分を持った人物であった。この地域は次に遼の支配下となり、宣化遼墓群に代表される、平面形状 (a) を持つ「A：主室壁高が奥行・横幅の1/2より大きい」かつ「I-1：壁部に組物部材を有する」タイプが出現する。唐末の例とは平面形状や壁画の内容に類似点がみられるものの、両者に100年強の時間差があり、系譜関係を明らかにするには未だ考古資料が不足している状態である。

遼の多角形墓室が盛んに築造されたのは、内蒙古・遼寧地域である。この地域は遼の中心地であり、主たる都である上京や歴代皇帝の陵園が位置している。八角形、六角形、十角形の主室を持つ墓が築造され、その大多数が「B：主室壁高が奥行・横幅の1/2以下」かつ「(II) 組物部材なし」タイプであった。皇帝や高位貴族は主室の奥行5 m以上の大規模な墓を築造した。また、墓全体の構造の変化から平面形状 (b) 主室入口の墓壁部分を構築せず、入口左右の壁が直接甬道に連結するタイプも登場した。

一方、北宋では山西省中部・河南省を中心に、遼とは異なるプロポーションをもつ「AI-1」と組物部材が頂部に付く「AI-2」が主流であった。八角形と六角形の墓室が築造されたが、主室の規模は3 m以下の小型のものに限られた。室内に塼彫や壁画が描かれ、奥壁には「門（婦人啓門）」が多く用いられた。「室墓」自体が中原・北方地域の墓制であるためか、多角形墓室の報告例は長江流域以北までとなる（呉敬 2015）。南宋の多角形墓室は、現状では発見されていない。

遼・北宋の領域をまとめて支配下に置いた金は、墓室の立面構造と規模について北宋と同様の傾向を示し、主に山西省の中部以南に八角形と六角形の墓室が分布する。遼代に築造が盛んであった内蒙古・遼寧地域では、多角形墓室の築造が著しく減少する。壁面装飾は奥壁に「門（婦人啓門）」を配する場合に加えて、「墓主夫婦」の割合が増加した。

遼、宋（北宋）、金の傾向をみると、立面形状のA類は中原地域、B類は内蒙古・遼寧地域の特徴だと推測できる。A類は空間として、上方向に広く細長い印象、B類の空間は横方向に低く、墓室が太低い印象を与える。それぞれの時期・地域で例外はあるものの、地域的な伝統が基本的には維持されていたのがうかがえる。

そして元になると、多角形墓室は前時代の特徴を受け継ぎつつも、より多様になっていく。主な分布域は金と変わらず山西省で八角形と六角形墓室の双方があるが、A類とB類の割合が半々となる。主室規模については、唐末五代・遼以来となる、主室規模が5 m級の大型のものが出現した。多角形墓室の使用が、裕福ではあるが社会的な地位の低い地主や商人などの平民に限られず、高位の官人にも再び広まったことがうかがえる。大多数の主室は壁部に組物部材を有し、

斗や椀などの部品は金と比較して簡素化しているが、組物部材が主室の高さに占める割合に極端な変化はみられない。また壁面の装飾は、奥壁に「墓主夫婦」や「山水・花鳥」を配する割合が増加し、「門」は減少した。

おわりに

本稿では、多角形墓室に着目して唐末五代、遼、宋（北宋）、金、元と通時的な展開を追ってきた。最後に分析の成果と今後の課題について述べたい。

唐末～元までの通時的な分析・考察で明らかになったのは以下の4点である。

- (1) 墓室の平面形状を多角形にするという意識は唐末には既に存在した。
- (2) 八角形墓室と六角形墓室は同時並行で唐末～元の全期間に存在する。八角形墓室の方が数量は多く、墓室規模も大きい。
- (3) 遼・北宋～金まではA類（主室の壁部の高さが奥行・横幅の長さの1/2より大きいタイプ）は中原地域、B類（主室の壁部の高さが奥行・横幅の1/2以下のタイプ）は内蒙古・遼寧地域に偏って分布し、地域の特性となっていたが、元になると両者が中原地域に現れる。
- (4) 遼では皇帝や高位貴族が大型の八角形墓室を築造しており、また報告例自体も他の時期と比較して多い。一方、中原地域の北宋・金では小型の墓室に限られ、被葬者は身分の低い官人や裕福な平民と推測される。その後の元では高位な人物も再び多角形墓室を使用するようになる。

これらの点から、唐末～元の時期を通じて、八角形と六角形の墓室は存在しており、背景には両方の図形を内包する思想があったと考えられる。また最も盛行したのが中原地域ではなく、遼の支配下にあった北方地域であることも興味深い。今後の課題としては、仏塔など同時期の他の多角形構造物の分析、および墓室との比較を行い、多角形流行の背景を実証的に探っていく必要があると考える。

引用文献

【論文】

- 今野春樹 2003「遼代契丹墓の研究—分布・立地・構造について—」『考古学雑誌』87-3 pp.1-35
- 呉敬 2015『南方地区宋代墓葬研究』社会科学文献出版社
- 黄小钰 2019『北京及周边地区辽代壁画墓研究』科学出版社
- 崔世平 2022『唐宋之際：五代十国墓葬研究』上海古籍出版社
- 秦大樹 2005「宋代喪葬習俗の變革及其體現的社會意義」『唐研究 第十一卷』北京大学出版社 pp.313-335
- 秦大樹 2004『宋元明考古』文物出版社
- 秦大樹 1997「金墓概述」『中国考古集成 東北卷17 金（一）』北京出版社 pp.11-25
- 周藤吉之・中島 敏 2019『五代と宋の興亡』講談社
- 譚其驥 1982a『中國歷史地圖集 第6冊 宋、遼、金時期』三聯書店

多角形墓室の構造と変遷

- 譚其驥 1982b 『中國歷史地圖集 第7冊 元, 明時期』三聯書店
- 張保卿 2020 「北宋四京地区墓葬等級制度初探」『考古』4 pp.100-111
- 陳相偉 1997 「試論東北、河北等地金代墓葬的類型和演變」『中國考古集成 東北卷17 金(一)』北京出版社 pp.53-61
- 陳朝雲 1994 「我國北方地区宋代磚室墓地類型和分期」『鄭州大學學報』6 pp.75-79
- 丁利娜 2009 「北京地区金代墓葬概述」『文物春秋』4 pp.26-31、69
- 董新林 2004 「遼代墓葬形制與分期略論」『考古』8 pp.62-75
- 董新林 2014 「長城以北地区金墓初探」『北方文物』3 pp.34-39
- 楊遠 2007 「河南北宋壁畫墓的分期研究」『考古與文物』3 pp.85-63
- 李逸友 1991 「遼代契丹人墓葬制度概說」『內蒙古東部区考古學文化研究集』pp.80-102
- 劉曉東·楊志軍·郝思德·李陳奇 1997 「試論金代女真貴族墓葬的類型及演變」『中國考古集成 東北卷17 金(一)』北京出版社 pp.45-52
- 劉未 2016 『遼代墓葬的考古學研究』科學出版社
- 林棟 2019 「再論遼代磚室墓的形制」『金顏永晝—康平遼代契丹貴族墓專題』北京聯合出版公司 pp.132-144
- 盧青峰·趙永青 2008 「試論燕雲地区金代墓葬」『文物世界』6 pp.28-32

【發掘報告】

1. 安陽市文物考古研究所·北京大學考古文博院 2019 「河南安陽小任家莊金代磚彫壁畫墓發掘簡報」『文物』2 pp.4-15
2. 內蒙古史前文化博物館 2020 「赤峰市敖漢旗韓家窩鋪遼代壁畫墓發掘簡報」『草原文物』1 pp.36-46
3. 內蒙古自治區文物工作隊 1984 「敖漢旗范仗子遼墓」『內蒙古文物』pp.75-79
4. 內蒙古赤峰市敖漢旗博物館 1998 「內蒙古敖漢旗皮匠溝1、2號遼墓」『文物』9 pp.46-63
5. 內蒙古文物考古研究所 2010 「赤峰市敖漢旗白塔村遼代墓葬」『內蒙古文物考古』1 pp.12-19
6. 內蒙古文物考古研究所 1997 「敖漢旗皮匠溝遼代墓葬」『內蒙古文物考古文集 第2輯』pp.639-650
7. 內蒙古文物考古研究所·內蒙古博物院 2016 「內蒙古林西縣劉家大院遼代墓地發掘簡報」『考古』2 pp.77-87
8. 內蒙古文物考古研究所·赤峰市博物館 1994 「寧城縣岳家仗子遼蕭府君墓清理記」『內蒙古文物考古文集』pp.548-552
9. 內蒙古文物考古研究所·錫林郭勒盟文物保護管理站·多倫縣文物局 2016 「內蒙古多倫縣小王力溝遼代墓葬」『考古』10 pp.55-80
10. 內蒙古文物考古研究所·哲里木盟博物館 1987 「內蒙古庫倫旗七、八號遼墓」『文物』7 pp.74-84
11. 內蒙古文物考古研究所·遼中京博物館 1997 「寧城縣埋王溝遼代墓地發掘簡報」『內蒙古文物考古文集 第2輯』pp.609-630
12. 內蒙古文物考古研究所·遼中京博物館 1997 「寧城縣鴿子洞遼代壁畫墓」『內蒙古文物考古文集 第2輯』pp.631-638
13. 烏蘭察布盟文物工作站 1988 「內蒙興和尖山遼墓發掘簡報」『北方文物』4 pp.43-45
14. 烏蘭察布盟文物工作站 1983 「察右前旗豪欠營第六號遼墓清理簡報」『文物』9 pp.1-8
15. 王健群·陳相偉 1989 『庫倫遼代壁畫墓』文物出版社
16. 王建国 1986 「敖漢旗小柳條溝金代墓葬」『內蒙古考古文物』pp.80-86
17. 溫麗和 1989 「遼寧法庫縣葉茂台遼肖義墓」『考古』4 pp.324-330
18. 郭素新編 1999 「敖漢旗羊山1-3號墓遼墓清理簡報」『內蒙古文物考古』1 pp.1-37
19. 郭素新編 1999 「敖漢旗七家遼墓」『內蒙古文物考古』1 pp.46-66
20. 郭素新編 1999 「敖漢旗下灣子遼墓清理簡報」『內蒙古文物考古』1 pp.67-84
21. 鶴壁市文物工作隊 1996 「鶴壁市東頭村金墓發掘簡報」『中原文物』3 pp.32-36、94

22. 韓國祥 2000「朝陽西上台遼墓」『文物』7 pp.50-64
23. 河南省文物研究所·鞏縣文物保管所 1988「宋太宗元德李后陵發掘報告」『華夏考古』3 pp.19-46
24. 河北省文管會 1958「唐山市徒河水庫漢、唐、金、元、明墓發掘簡報」『考古通訊』3 pp.5-14
25. 河北省文化局文物工作隊 1962「河北井陘縣柿庄宋墓發掘報告」『考古學報』2 pp.31-73
26. 河北省文物研究所 2001「宣化遼墓-1974~1993年考古發掘報告 上冊」文物出版社
27. 河北省文物研究所 2000「河北平山兩岔宋墓」『考古』9 pp.49-59
28. 河北省文物研究所 1998「石家莊後太保村史氏家族墓發掘報告」『河北省考古文集』pp.344-369
29. 河北省文物研究所 1996「石家莊市後太保元代史氏墓群發掘簡報」『文物』9 pp.47-57
30. 河北省文物研究所·保定市文物管理處·涿州市文物保管所 2004「河北涿州元代壁畫墓」『文物』3 pp.42-60
31. 河北省文物考古研究院·張家口文物考古研究所·蔚縣文物事業管理所 2021「河北蔚縣三閭遼代家族墓地 M3發掘簡報」『文物』10 pp.23-38
32. 雁羽 1960「錦西大隊鋪遼金時代畫象石墓」『考古』2 pp.29-33
33. 魏堅 2008『元上都』中國大百科全書出版社
34. 許昌市文物工作隊 2010「許昌文峰路金墓發掘簡報」『中原文物』1 pp.9-16
35. 錦州市文物考古研究所 2012「遼寧凌海市鄭家窩鋪發現遼代畫像石墓」『考古』6 pp.93-96
36. 靳楓毅·徐基 1985「遼寧建昌龜山一號遼墓」『文物』3 pp.48-54
37. 原江·喬陽 2016「太原剛玉五一生活區元代墓葬發掘簡報」『文物世界』5 pp.10-13
38. 敖漢旗文化館 1978「敖漢旗白塔子遼墓」『考古』2 pp.119-121
39. 敖漢旗文物管理所 1987「內蒙古敖漢旗英鳳溝金代墓地」『文物』8 pp.57-60
40. 敖漢旗文物管理所 1984「內蒙古昭烏達盟敖漢旗北三家遼墓」『考古』11 pp.970、1003-1011
41. 山西省考古研究院·洪洞縣文化和旅游局 2022「山西省洪洞西孔村元代地震紀年墓發掘簡報」『文物季刊』4 pp.44-51
42. 山西省考古研究院·朔州市朔城區文物保護研究與利用中心 2022「山西朔州官地元代壁畫墓發掘簡報」『文物』1 pp.35-42
43. 山西省考古研究院·陽泉市文物管理委員會·孟縣文物管理委員會 2021「山西孟縣泥河金代壁畫墓發掘簡報」『中原文物』6 pp.4-9、136
44. 山西省考古研究所 1989「山西襄汾金墓清理簡報」『文物』10 pp.11-23
45. 山西省考古研究所·沁縣文物館 2016「山西沁縣上庄金墓發掘簡報」『文物』8 pp.38-46
46. 山西省考古研究所·晉中市考古研究所 2019「山西晉中竜白金墓發掘簡報」『文物』11 pp.34-40
47. 山西省考古研究所·汾西縣文物局 2018「山西汾西郝家溝金代紀年壁畫墓發掘簡報」『文物』2 pp.11-22
48. 山西省考古研究所·汾陽縣博物館 1991「山西汾陽金墓發掘簡報」『文物』12 pp.16-32
49. 山西省考古研究所·汾陽市文物旅游局 2010「2008年山西汾陽東竜觀宋金墓地發掘簡報」『文物』2 pp.23-38
50. 山西省考古研究所·汾陽市文物旅游局·汾陽市博物館編著 2012『山西汾陽東竜觀宋金壁畫墓』文物出版社
51. 山西省考古研究所·陽泉市文物管理委員會·平定縣文物管理所 1996「山西平定宋、金壁畫墓簡報」『文物』5 pp.1-16
52. 山西省文物管理委員會 1963「太原西南郊清理的漢至元代墓葬」『考古』5 pp.264-269
53. 山西省文物管理委員會·山西省考古研究所 1960a「山西孝義下吐京和梁家庄金、元墓發掘簡報」『考古』7 pp.57-61
54. 山西省文物管理委員會·山西省考古研究所 1960b「山西城永樂宮旧址宋德方、潘德冲和“呂祖”墓發掘簡報」『考古』8 pp.22-25
55. 山西大學科學技術哲學研究中心·山西省考古研究所·山西博物院 2011「山西興縣紅峪村元至大二年壁畫墓」『文物』2 pp.40-46
56. 司玉慶 2015「鶴壁故縣北宋紀年壁畫墓鑑賞」『文物鑑定與鑑賞』8 pp.88-91

多角形墓室の構造と変遷

57. 四川大学考古文博学院・瀋陽市文物考古研究所 2024 「遼寧康平張家窯林場長白山Ⅰ区2号遼墓發掘簡報」『文物』2 pp.48-56
58. 周到 1964 「宋魏王趙頴夫妻合葬墓」『考古』7 pp.349-354
59. 尚曉波 1989 「遼寧省朝陽市發現遼代龔祥墓」『北方文物』4 pp.28-31
60. 焦作市文物工作隊・修武縣文物管理所 1995 「河南修武大位金代雜劇磚影墓」『文物』2 pp.54-63
61. 商彤流・郭海林 2000 「山西沁縣發見金代磚影墓」『文物』6 pp.60-73
62. 襄樊市博物館 1985 「襄樊磨基山宋墓發掘簡報」『江漢考古』3 pp.26-30
63. 宿白 2002 『白沙宋墓』文物出版社
64. 齊曉光 1986 「阿魯科爾沁旗柴達木遼墓」『內蒙古文物』pp.77-79
65. 西北大學文化遺產學院・甘肅省博物館 2016 「陝西甘泉柳河渠灣金代壁畫墓發掘簡報」『文物』11 pp.40-50
66. 赤峰市博物館・阿魯科爾沁旗文管所 1998 「赤峰阿旗罕蘇木蘇木遼墓清理簡報」『內蒙古文物考古』1 pp.26-34
67. 赤峰市博物館考古隊・阿魯科爾沁旗文物管理處 1993 「赤峰市阿魯科爾沁旗溫多爾敖瑞山遼墓清理簡報」『文物』3 pp.57-67
68. 赤峰市博物館・寧城縣文物局 2018 「赤峰寧城縣福峰山遼代墓葬」『草原文物』1 pp.49-56
69. 陝西省考古研究院・榆林市文物考古勘探工作隊・橫山縣文化市場綜合 2016 「陝西橫山羅圪台村元代壁畫墓發掘簡報」『考古與文物』5 pp.63-74
70. 太原市文物考古研究所 2021 「山西太原兩座元代壁畫墓發掘簡報」『文物世界』6 pp.10-16
71. 太原市文物考古研究所 2016 「太原市王家庄金元壁畫墓發掘簡報」『文物世界』6 pp.3-5、16
72. 田村實造・小林行雄 1952 『慶陵：東モンゴリアにおける遼代帝王陵とその壁畫に關する考古學的調查報告』座右寶刊行會
73. 檀志慧 2016 「古交市河下村元代墓葬」『文物世界』5 pp.16、33-35
74. 中國社會科學院考古研究所安陽工作隊 1994 「河南安陽新安庄西地宋墓發掘簡報」『考古』10 pp.910-918
75. 中國社會科學院考古研究所安陽工作隊 2015 「河南安陽劉家庄北地唐宋墓發掘報告」『考古學報』1 pp.101-128
76. 張家口市宣化區文物保管所 2008a 「河北宣化紀年唐墓發掘簡報」『文物』7 pp.23-48
77. 張家口市宣化區文物保管所 2008b 「宣化下八里Ⅱ區遼壁畫墓考古發掘報告」文物出版社
78. 張克學 2003 「北寧龍崗遼墓」『遼寧考古文集』pp.112-120
79. 趙思青・武永政 1983 「溫縣宋墓發掘簡報」『中原文物』1 pp.19-20
80. 趙培青 2015 「山西孟縣皇后村宋金壁畫墓」『文物世界』1 pp.42-46
81. 張茂生 1994 「山西汾陽縣北偏城宋墓」『考古』3 pp.286、283
82. 朝陽市龍城區博物館 2020 「遼寧朝陽市水泉三座遼代紀年墓」『北方文物』4 pp.17-31
83. 朝陽博物館 2012 「遼寧朝陽市金代紀年墓葬的發掘」『考古』3 pp.51-58
84. 鄭州市文物考古研究所・新密市博物館 1998 「河南新密市平陌宋代壁畫墓」『文物』12 pp.26-32
85. 鄭州市文物考古研究所・登封市文物局 2012 「河南登封唐庄宋代壁畫墓發掘簡報」『文物』9 pp.35-50
86. 鄭州市文物考古研究所・登封市文物局 2005 「河南登封城南庄宋代壁畫墓」『文物』8 pp.62-70
87. 鄭州市文物考古研究所・登封市文物局 2004 「登封高村壁畫墓清理簡報」『中原文物』5 pp.4-12
88. 鄭州市文物考古研究所・登封市文物局 2001 「河南登封黑山溝宋代壁畫墓」『文物』10 pp.60-66
89. 鄭州市文物工作隊 1994 「登封王上壁畫墓發掘簡報」『文物』10 pp.4-9
90. 鄭州市博物館 1982 「滎陽司村宋代壁畫墓」『中原文物』4 pp.39-44
91. 鄭隆 1959 「赤峯大窩鋪遼墓」『考古』1 pp.47-48
92. 南陽市文物研究所・鄧州市文化館 1997 「河南省鄧州市北宋趙榮壁畫墓」『中原文物』4 pp.64-65、78
93. 南京市博物館 2011 「南京市太新路宋墓發掘簡報」『東南文化』6 pp.39-42

94. 巴林右旗博物館 2000「遼慶陵又有重要發現」『內蒙古文物考古』2 pp.1-16
95. 巴林左旗文化旅遊體育局 2021「赤峰市巴林左旗帳房山遼代壁畫墓清理簡報」『草原文物』1 pp.43-49
96. 巴林左旗博物館 1999「內蒙古巴林左旗滴水壺遼代壁畫墓」『考古』8 pp.53-59
97. 馮永謙 1983「遼寧法庫前山遼肖袍魯墓」『考古』7 pp.624-635
98. 馮鋼 2018「尖草坪區東張村金代墓群發掘簡報」『文物世界』3 pp.3-8
99. 馮文海 1958「山西忻縣北宋墓清理簡報」『文物參考資料』5 pp.49-50
100. 北京大學考古文博學院・洛陽古代藝術博物館 2016「新安縣石寺李村北宋宋四郎磚彫壁畫墓測繪簡報」『故宮博物院院刊』1 pp.71-87
101. 陽泉市文物管理處 2016「山西陽泉古城金墓發掘簡報」『文物』10 pp.23-31
102. 陽泉市文物管理處・陽泉市郊區文物旅遊局 2016「山西陽泉東村元墓發掘簡報」『文物』10 pp.32-43
103. 羅火金・張麗芳 2007「宋代梁全本墓」『中原文物』5 pp.26-28
104. 洛陽市第二文物工作隊 2002「洛陽道北金代磚彫墓」『文物』9 pp.21-29
105. 洛陽市第二文物工作隊 1993「洛陽伊川元墓發掘簡報」『文物』5 pp.40-44
106. 洛陽市文物工作隊 2011「洛陽洛龍區閔林廟宋代磚彫墓發掘簡報」『文物』8 pp.31-46
107. 洛陽市文物工作隊 1996「河南新安縣梁庄北宋壁畫墓」『考古與文物』4 pp.8-14
108. 洛陽博物館 1983「洛陽澗西三座宋代做木構磚室墓」『文物』8 pp.13-19
109. 李宇峰・袁海波 1988「遼寧阜新遼蕭僅墓」『北方文物』2 pp.33-36
110. 劉偉東 2004「赤峰市元宝山區大營子遼墓」『內蒙古文物考古』2 pp.17-23
111. 呂學明・朱達 2003「凌源馬家溝遼墓清理簡報」『遼寧考古文集』pp.134-141
112. 梁振晶 2003「阜新四家子遼墓發掘簡報」『遼寧考古文集』pp.121-133
113. 遼寧省文物考古研究所編著 2015『凌源小喇嘛溝遼墓』文物出版社
114. 遼寧省文物考古研究所編著 2011『閔山遼墓』文物出版社
115. 遼寧省文物考古研究院・錦州市博物館・北鎮考古和文物保護服務中心 2024「遼寧錦州北鎮洪家街遼代墓地一號墓發掘簡報」『文物』8 pp.54-65
116. 遼寧省文物考古研究院・錦州市博物館・北鎮市文物處 2021「遼寧北鎮遼代耶律弘義墓發掘簡報」『文物』11 pp.50-62
117. 遼寧省文物考古研究所・瀋陽市文物考古研究所 2010「遼寧法庫縣葉茂台23號遼墓發掘簡報」『考古』1 pp.49-68
118. 遼寧省文物考古研究所・阜新市考古隊 2011「遼寧阜新縣遼代平原公主墓與梯子廟4號墓」『考古』8 pp.46-65
119. 山西省考古研究所・呂梁市文物技術開發中心・呂梁市文物考古調查勘探隊 2018「山西醫科大學汾陽學院墓地發掘簡報」『文物世界』4 pp.12-17
120. 內蒙古自治區文物考古研究所 2017「通遼市奈曼旗大代村遼代M1清理簡報」『草原文物』1 pp.37-40

図表出典

- 図1：③（內蒙古史前文化博物館 2020）p.38 図五、（洛陽市文物工作隊 1996）p.12 図六、（山西省考古研究所ほか 2022）図九、（山西省考古研究所ほか 2012）p.99 図八七、（鄭州市文物工作隊 1994）p.6 図三、（山西省考古研究所ほか 1991）p.25 図一八を用いて作成。
- 図2の1：（張家口市宣化區文物保管所 2008a）p.24 図二、p.41 図四五、（河北省文管會 1958）p.11 図10の1を用いて作成。
- 図2の2：（河北省文物研究所 2001）p.163 図一三〇、p.270 図二一二、p.271 図二一三、（內蒙古文物考古研究所ほか 1997）p.611 図三、（李宇峰ほか 1988）p.34 図二、（遼寧省文物考古研究所編著 2011）p.6 図三、（內蒙古自治區文物工作隊 1984）p.76 図一、（內蒙古赤峰市敖漢旗博物館 1998）p.47 図三、（內蒙古史前文化博物館

多角形墓室の構造と変遷

館 2020) p.38 図四を用いて作成。

図 2 の 3 : (中国社会科学院考古研究所安陽工作隊 1994) p.911 図二、p.912 図三、(北京大学考古文博学院ほか 2016) p.72 図一、p.74 図四、(鄭州市文物工作隊 1994) p.5 図二、(南京市博物館 2011) p.40 図二、(河北省文物研究所 2000) p.52 図五、(馮文海 1958) p.49 図一、(宿白 2002) 図版拾陸、図版拾七、(鄭州市文物考古研究院ほか 2012) p.36 図二、p.49 図四三を用いて作成。

図 2 の 4 : (山西省文物管理委員会ほか 1960a) p.58 図一、(洛陽市第二文物工作隊 2002) p.22 図二、(馮鋼 2018) p.5 図一〇、(商彤流ほか 2000) p.61 図一、(敖漢旗文物管理所 1987) p.57 図二、(朝陽博物館 2012) p.52 図二、(山西省考古研究所 2012) p.114 図100を用いて作成。

図 2 の 5 : (山西省文物管理委員会ほか 1960a) p.60 図四、p.61 図五、(山西省考古研究院ほか 2022) p.36 図二、(陝西省考古研究院ほか 2016) p.64 図二、(魏堅 2008) p.363 図三五、p.366 図三八を用いて作成。

図 3 : Esri 社 ArcGIS のベースマップ (著作権 : Esri, Garmin, GEBCO, NOAA, and other contributors)、および引用文献【発掘報告】を使用して作成。

図 4 : 引用文献【発掘報告】をもとに作成。

表 1 : 引用文献【発掘報告】をもとに作成。

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覽

墓名	所在地	紀年銘	室数	室形状	建材	墓の基礎情報				墓の主要の法量				主室の立面形状				椁木構造				壁面	文献			
						奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷ 奥行	壁高 ÷ 横幅	全高 ÷ 奥行	部材の有無	分類	部材の有無	全高に占める%	部材の位置	平面形状							
唐1 河北宣化張慶宗墓	河北省張家口市	乾符四年(877年)	1	八角形	磚	4.4	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76			
唐2 河北宣化楊鈞墓	河北省張家口市	乾符六年(879年)	1	六角形	磚	-	4.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76			
唐3 唐山市徒河水庫劉莊第7号磚墓	河北省唐山市		1	六角形	磚	(2.91)	(3.64)	-	(1.55)	B	0.53	0.42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25			
唐4 唐山市徒河水庫劉莊第3号石墓	河北省唐山市		1	六角形	石	(2.44)	(2.24)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25			
遼1 赤峰市阿魯科爾沁旗温多爾敖瑞山遼墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	3.30	3.40	(3.37)	1.60	B	0.48	0.47	1.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67			
遼2 赤峰阿旗平蘇木蘇木万金山遼墓M1	內蒙古赤峰市		1	八角形	石	3.90	3.90	(2.84)	1.50	B	0.38	0.38	0.73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66			
遼3 赤峰阿旗平蘇木蘇木万金山遼墓M2	內蒙古赤峰市		1	八角形	石	3.70	3.70	-	1.30	B	0.35	0.35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66			
遼4 赤峰阿旗平蘇木蘇木朝克圖東山遼墓M3	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	4.50	4.50	-	1.75	B	0.39	0.39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66			
遼5 赤峰阿旗平蘇木蘇木朝克圖東山遼墓M4	內蒙古赤峰市		1	八角形	石	4.00	4.00	(3.57)	2.00	B	0.50	0.50	0.89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66			
遼6 阿魯科爾沁旗柴達木遼墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	石	2.90	3.00	2.46	1.30	B	0.45	0.43	0.85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65			
遼7 慶中陵(興宗陵)	內蒙古赤峰市	清寧元年(1055年)	7	八角形	磚	約9.0	約9.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72			
遼8 慶西陵(道宗陵)	內蒙古赤峰市	乾統元年(1101年)	7	八角形	磚	約8.0	約8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72			
遼9 耶律弘世墓	內蒙古赤峰市	大安三年(1087年)	3	十角形	磚	(6.03)	(6.47)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94			
遼10 耶律弘基墓	內蒙古赤峰市	乾統十年(1110年)	3	八角形	磚	6.88	6.88	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94			
遼11 赤峰市巴林左旗帳房山遼代壁画墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.65	(2.74)	2.80	1.50	A	0.57	0.55	1.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95			
遼12 內蒙古巴林左旗滴水壺遼墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	石	3.30	3.30	3.00	1.30	B	0.39	0.39	0.91	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3%	壁部	b	l,v	96
遼13 內蒙古林西縣劉家大院遼代墓地M3	內蒙古赤峰市		1	六角形	木	1.90	2.30	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	
遼14 通遼市奈曼旗大代村遼代M1	內蒙古通遼市		1	六角形	磚	(3.00)	(3.57)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120	
遼15 內蒙古昭烏達盟敖漢旗北三家1号墓	內蒙古赤峰市		3	六角形	磚	(3.19)	(3.51)	3.30	1.76	B	0.55	0.50	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	
遼16 內蒙古昭烏達盟敖漢旗北三家3号墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.58	2.64	2.60	1.13	B	0.44	0.43	1.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	
遼17 敖漢旗七家1号墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.46	2.80	2.50	(1.20)	B	0.49	0.43	1.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
遼18 敖漢旗七家2号墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.45	2.92	不明	(1.20)	B	0.49	0.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
遼19 敖漢旗七家3号墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	3.20	3.00	2.80	1.40	B	0.44	0.47	0.88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
遼20 敖漢旗七家4号墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	3.70	3.75	3.40	1.50	B	0.41	0.40	0.92	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
遼21 敖漢旗七家5号墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	2.39	2.48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
遼22 敖漢旗下灣子遼墓M1	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	2.00	2.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
遼23 敖漢旗下灣子遼墓M2	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	2.10	2.10	-	(1.20)	A	0.57	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
遼24 敖漢旗十灣子遼墓M5	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	1.24	1.64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
遼25 內蒙古敖漢旗皮匠溝1号墓	內蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.90	2.90	3.00	0.90	B	0.31	0.31	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	10%	-	a	4	
遼26 內蒙古敖漢旗皮匠溝2号墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	洞	3.80	(3.45)	2.50	(0.93)	B	0.24	0.27	0.66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覧

墓名	所在地	年代	室数	室形状	建材	墓の主要の法量				墓室の立面形状				椁木構造				壁面形状	文献
						奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷奥行	壁高 ÷横幅	全高 ÷奥行	分類	部材の有無	全高に 占める%	部材の 位置		
遼27 内蒙古敖漢旗皮匠溝3号墓	内蒙古赤峰市		1	八角形	磚	4.60	4.50	-	1.90	B	0.41	0.42	-	-	-	-	-	a	6
遼28 内蒙古敖漢旗皮匠溝4号墓	内蒙古赤峰市		1	八角形	磚	4.60	4.00	-	1.85	B	0.40	0.46	-	-	-	-	-	a	6
遼29 赤峰市敖漢旗韓家高鋪遼墓M2	内蒙古赤峰市		1	六角形	磚	(2.12)	2.36	2.20	0.94	B	0.44	0.40	1.04	II	無	-	-	a	2
遼30 赤峰市敖漢旗韓家高鋪遼墓M6	内蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.52	2.52	2.38	1.32	A	0.52	0.52	0.94	II	無	-	-	a	2
遼31 敖漢旗羊山2号墓	内蒙古赤峰市		1	八角形	磚	4.00	4.00	-	(1.13)	B	0.28	0.28	-	-	-	-	-	a	18
遼32 赤峰市敖漢旗白塔村遼墓M1	内蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.70	2.60	2.25	(1.37)	A	0.51	0.53	0.83	II	無	-	-	a	5
遼33 敖漢旗白塔子遼墓	内蒙古赤峰市		1	六角形	磚	2.80	2.80	2.30	-	-	-	-	0.82	II	無	-	-	a	3
遼34 敖漢旗范份子遼墓M101	内蒙古赤峰市		1	六角形	土洞	(2.93)	(2.93)	3.70	(2.60)	A	0.89	0.89	1.26	II	無	-	-	a	38
遼35 赤峰市元宝山区大窩子塔子山一号遼墓	内蒙古赤峰市	大安八年(1092年)	2	八角形	磚	4.83	5.13	-	1.43	B	0.30	0.28	-	II	無	-	-	a	110
遼36 赤峯大窩鋪遼墓	内蒙古赤峰市		1	八角形	磚	(3.98)	(3.85)	3.00	-	-	-	-	0.75	-	-	-	-	b	91
遼37 内蒙古小王力溝遼墓M1	内蒙古錫林浩特		1	八角形	磚	(5.17)	5.30	-	2.30	B	0.44	0.43	-	-	-	-	-	b	9
遼38 内蒙古興和尖山遼墓	内蒙古烏蘭察布		1	八角形	磚	3.09	3.08	3.03	(1.87)	A	0.61	0.61	0.98	I-1	有	10.5%	壁部	a	13
遼39 察右前旗蒙古營第六号遼墓	内蒙古烏蘭察布		1	八角形	石	2.20	2.12	2.26	1.59	A	0.72	0.75	1.03	-	-	-	-	a	14
遼40 庫倫遼代一号墓	内蒙古通遼市		3	八角形	磚	5.00	5.22	4.90	2.04	B	0.41	0.39	0.98	II	無	-	-	b	15
遼41 庫倫遼代二号墓	内蒙古通遼市		1	八角形	磚	(4.95)	(5.05)	4.00	2.10	B	0.42	0.42	0.81	II	無	-	-	b	15
遼42 庫倫遼代七号墓	内蒙古通遼市		4	八角形	磚	4.64	4.72	-	1.52	B	0.33	0.32	-	II	無	-	-	b	10
遼43 赤峰寧城县福峰山遼墓	内蒙古赤峰市	咸雍八年(1072年)	1	八角形	磚	6.20	(6.20)	-	1.56	B	0.25	0.25	-	-	-	-	-	b	68
遼44 寧城县岳家仗子遼墓府君墓	内蒙古赤峰市	咸雍八年(1072年)	1	八角形	磚	(4.91)	(5.03)	-	2.0	B	0.41	0.40	-	II	無	-	-	a	8
遼45 寧城县理王溝遼代墓地M1	内蒙古赤峰市		1	八角形	磚	4.95	4.80	(3.73)	(1.73)	B	0.35	0.36	0.75	I-2	有	33%	頂部	a	11
遼46 寧城县理王溝遼代墓地M3	内蒙古赤峰市	咸雍六年(1070年)	4	八角形	磚	4.80	4.50	(3.93)	2.25	B	0.47	0.50	0.82	II	無	-	-	a	11
遼47 寧城县理王溝遼代墓地M4	内蒙古赤峰市	大康七年(1081年)	4	八角形	磚	5.15	5.0	4.60	2.30	B	0.45	0.46	0.89	II	無	-	-	a	11
遼48 寧城县胡子洞遼代壁面墓	内蒙古赤峰市		4	八角形	磚	6.30	6.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	12
遼49 遼寧省平壤寧安縣林場長白山区2号遼墓	遼寧省瀋陽市		3	八角形	磚	4.90	5.10	-	-	-	-	-	-	II	無	-	-	a	57
遼50 遼寧省法庫前山遼肖袍魯墓	遼寧省瀋陽市	大安六年(1090年)	3	八角形	磚	4.80	(4.78)	3.80	1.35	B	0.28	0.28	0.79	II	無	-	-	a	97
遼51 遼寧省法庫縣草茂台遼肖墓	遼寧省瀋陽市	天慶二年(1112年)	4	八角形	磚	5.82	(5.74)	4.81	1.95	B	0.34	0.34	0.83	II	無	-	-	a	17
遼52 遼寧省法庫縣草茂台23号遼墓	遼寧省瀋陽市		3	八角形	磚	4.70	4.85	4.40	2.40	B	0.51	0.49	0.94	II	無	-	-	a	117
遼53 遼寧省阜新縣遼代梯子廟4号墓	遼寧省阜新市		1	八角形	磚	(5.07)	(5.02)	-	1.70	B	0.34	0.34	-	II	無	-	-	a	118
遼54 遼寧省阜新縣遼墓	遼寧省阜新市	太平九年(1029年)	4	八角形	磚	4.70	4.70	3.50	1.00	B	0.21	0.21	0.74	II	無	-	-	a	109
遼55 阜新四家子遼墓M1	遼寧省阜新市		4	八角形	磚	5.10	5.10	5.60	1.86	B	0.36	0.36	1.10	II	無	-	-	a	112
遼56 阜新四家子遼墓M2	遼寧省阜新市		4	八角形	磚	4.56	4.56	-	1.77	B	0.39	0.39	-	-	-	-	-	a	112
遼57 開山遼墓M1	遼寧省阜新市	大康元年(1075年)	1	八角形	磚	5.60	5.30	4.60	1.75	B	0.31	0.33	0.82	II	無	-	-	b	114
遼58 開山遼墓M2	遼寧省阜新市	咸雍九年(1073年)	1	八角形	磚	5.00	4.60	5.00	1.90	B	0.38	0.41	1.00	II	無	-	-	b	114
遼59 開山遼墓M3	遼寧省阜新市	咸雍四年(1068年)	1	八角形	磚	5.50	5.50	4.90	1.90	B	0.35	0.35	0.89	II	無	-	-	b	114

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覽

墓名	所在地	年代	室数	室形状	建材	墓の基礎情報				墓の主要の法量				主室の立面形状				椁木構造				壁面	文献
						奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 + 奥行	壁高 + 横幅	全高 + 奥行	分類	部材の有無	全高に 占める%	部材の 位置	平面 形状					
遼60 関山遼墓M4	遼寧省阜新市	太平元年(1021年)	3	八角形	埴石	6.10	6.40	5.90	1.80	B	0.30	0.28	0.97	II	無	-	-	b	i	114			
遼61 関山遼墓M5	遼寧省阜新市		3	八角形	埴石	5.10	4.80	-	1.80	B	0.35	0.38	-	II	無	-	-	b	i	114			
遼62 関山遼墓M6	遼寧省阜新市		1	八角形	埴石	5.00	5.40	4.50	2.00	B	0.40	0.37	0.90	II	無	-	-	b	i	114			
遼63 関山遼墓M8	遼寧省阜新市	大康二年(1076年)	1	八角形	埴石	5.00	4.70	-	2.00	B	0.40	0.43	-	II	無	-	-	b	i	114			
遼64 関山遼墓M9	遼寧省阜新市	咸雍五年(1069年)	3	八角形	埴石	6.00	5.70	4.80	2.00	B	0.33	0.35	0.80	II	無	-	-	b	i	114			
遼65 遼寧北鎮御律弘義墓	遼寧省錦州市	重熙戊子年(1048年)	3	八角形	埴石	3.30	3.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	-	116			
遼66 北鎮南遼墓M1	遼寧省錦州市	清寧八年(1062年)	4	八角形	埴石	5.47	5.37	5.50	1.80	B	0.33	0.34	1.01	II	無	-	-	a	-	78			
遼67 遼寧錦州北鎮洪家街遼代墓地M1	遼寧省錦州市		1	八角形	埴石	4.20	4.30	-	(1.63)	B	0.39	0.38	-	II	無	-	-	a	-	115			
遼68 遼寧遼海市鄭家高鋪遼代画像石墓M3	遼寧省錦州市		1	八角形	石	2.80	3.04	-	1.20	B	0.43	0.39	-	I-1	有	-	-	壁部	a	iv	35		
遼69 遼寧省朝陽市遼代闕祥墓	遼寧省朝陽市	乾統四年(1104年)	1	六角形	埴石	3.40	3.10	-	(1.42)	B	0.42	0.46	-	-	-	-	-	a	-	59			
遼70 朝陽西上台遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	埴石	3.32	3.32	2.90	1.52	B	0.46	0.46	0.87	II	無	-	-	a	v	22			
遼71 遼源馬家溝遼墓	遼寧省朝陽市		2	八角形	埴石	4.20	4.16	(2.87)	1.50	B	0.38	0.36	0.68	II	無	-	-	a	-	111			
遼72 遼寧朝陽市水泉遼墓M1	遼寧省朝陽市	寿昌五年(1099年)	1	八角形	埴石	4.10	4.20	-	1.38	B	0.34	0.33	-	-	-	-	-	a	-	82			
遼73 遼寧朝陽市水泉遼墓M2	遼寧省朝陽市		1	十角形	埴石	3.05	3.09	-	1.46	B	0.48	0.47	-	-	-	-	-	a	-	82			
遼74 遼寧朝陽市水泉遼墓M10	遼寧省朝陽市	寿昌三年(1097年)	1	八角形	埴石	4.05	4.02	-	1.53	B	0.38	0.38	-	-	-	-	-	b	-	82			
遼75 遼源小喇嘛溝一号遼墓	遼寧省朝陽市		3	八角形	木	3.57	3.65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	b	-	113			
遼76 遼源小喇嘛溝二号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	3.72	3.52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	b	-	113			
遼77 遼源小喇嘛溝三号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	3.60	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	b	-	113			
遼78 遼源小喇嘛溝四号遼墓	遼寧省朝陽市		1	六角形	木	2.50	2.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	-	113			
遼79 遼源小喇嘛溝五号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	4.30	3.84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	-	113			
遼80 遼源小喇嘛溝六号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	埴石	4.40	4.40	-	1.76	B	0.40	0.40	-	-	-	-	-	a	-	113			
遼81 遼源小喇嘛溝七号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	3.60	3.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	-	113			
遼82 遼源小喇嘛溝八号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	3.40	3.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	b	-	113			
遼83 遼源小喇嘛溝九号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	4.20	4.10	(3.05)	1.30	B	0.31	0.32	0.73	-	-	-	-	a	-	113			
遼84 遼源小喇嘛溝十号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	木	3.70	3.60	(3.11)	1.10	B	0.30	0.31	0.84	-	-	-	-	b	-	113			
遼85 遼源小喇嘛溝十一号遼墓	遼寧省朝陽市		1	八角形	埴石	3.70	3.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	b	-	113			
遼86 遼寧建昌龜山一号遼墓	遼寧省葫蘆島市		3	六角形	埴石	3.10	3.80	-	-	-	-	-	-	II	無	-	-	a	-	36			
遼87 錦西大臥鋪遼画像石墓	遼寧省葫蘆島市		1	八角形	石	2.74	2.80	2.10	-	-	-	-	-	I-1	有	-	-	壁部	a	iv	32		
遼88 宣化遼墓M2	河北省張家口市	天慶七年(1117年)	1	六角形	埴石	2.40	2.90	2.80	1.80	A	0.75	0.62	1.17	I-1	有	-	-	壁部	a	v	26		
遼89 宣化遼墓M4	河北省張家口市	天慶元年(1111年)	2	六角形	埴石	3.10	3.10	3.20	(1.84)	A	0.59	0.59	1.03	I-1	有	-	-	壁部	a	iii	26		

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覽

墓名	墓の基礎情報			墓の主要の法量			主室の立面形状			做木構造			平面形状	壁画 奥壁	文献				
	所在地	年代	室数	主室形状	建材	奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷奥行	壁高 ÷横幅				全高 ÷奥行	全高に 占める%	部材の有無	部材の位置
遼90 宣化遼墓M5	河北省張家口市	天慶七年(1117年)	2	六角形	磚	2.68	3.16	2.49	1.63	A	0.61	0.52	0.93	-	有	壁部	a	v	26
遼91 宣化遼墓M6	河北省張家口市		2	八角形	磚	3.18	3.18	3.37	(1.71)	A	0.54	0.54	1.06	15.4%	有	壁部	a	ii	26
遼92 宣化下八里II区遼墓M1	河北省張家口市		1	八角形	石	3.70	3.66	2.60	1.40	B	0.38	0.388	0.70	-	無	-	a	-	77
遼93 宣化下八里II区遼墓M2	河北省張家口市		1	八角形	石	3.78	3.80	2.92	1.58	B	0.42	0.42	0.77	-	無	-	a	-	77
遼94 河北蔚縣三関遼代家法墓M3	河北省張家口市		1	六角形	磚	(2.80)	(2.90)	-	(2.22)	A	0.79	0.77	-	-	有	-	a	v	31
宋1 河北平山縣西宋墓M1	河北省石家莊市		1	六角形	磚	3.24	3.22	-	1.82	A	0.56	0.57	-	-	有	壁部	a	ii	27
宋2 河北平山縣西宋墓M2	河北省石家莊市		1	八角形	磚	2.80	(2.80)	2.45	(1.07)	B	0.38	0.38	0.88	31%	有	頂部	a	ii	27
宋3 河北井陘縣栲栳山宋一號墓	河北省石家莊市		1	八角形	磚	(2.05)	(2.14)	2.78	(1.48)	A	0.72	0.69	1.36	22%	有	壁部	a	ii	25
宋4 山西忻州北宋墓	山西省忻州市	政和四年(1114年)	1	八角形	磚	3.50	3.40	(2.85)	(1.66)	B	0.47	0.49	0.81	-	無	-	a	-	99
宋5 山西平定縣家溝村壁面墓	山西省陽泉市		1	六角形	磚	2.46	-	2.86	1.16	B	0.47	-	1.16	30%	有	頂部	-	ii	51
宋6 山西汾陽縣北唐城宋墓	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.35	2.37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	iv	81
宋7 山西汾陽縣東觀音寺宋墓M48	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.76	2.70	(3.15)	(1.65)	A	0.60	0.61	1.14	18%	有	壁部	a	ii	50
宋8 河南安陽縣新安庄西地宋墓M44	河南省安陽市	大觀三年(1109年)	1	八角形	磚	(3.25)	(3.25)	3.65	(1.75)	A	0.54	0.54	1.12	12%	有	壁部	a	ii	74
宋9 河南安陽縣劉家庄北地宋墓M290	河南省安陽市		1	八角形	磚	(2.73)	(2.89)	3.57	1.82	A	0.67	0.63	1.31	10%	有	壁部	a	-	75
宋10 鶴壁故縣北宋紀年壁面墓	河南省鶴壁市	紹聖元年(1094)	1	八角形	磚	2.84	3.06	3.20	(1.61)	A	0.57	0.53	1.13	18%	有	壁部	a	ii	56
宋11 宋代梁全本墓	河南省焦作市	崇寧四年(1105年)	1	八角形	磚	(3.06)	(3.58)	(4.27)	(2.45)	A	0.80	0.68	1.40	16%	有	壁部	a	ii	203
宋12 滎陽宋墓	河南省焦作市		1	八角形	磚	2.95	(2.95)	3.40	1.94	A	0.66	0.66	1.15	27%	有	壁部	a	ii	79
宋13 滎陽司村宋代壁面墓	河南省鄭州市		1	六角形	磚	(2.42)	(2.66)	2.96	1.00	B	0.41	0.38	1.22	13%	有	頂部	a	ii	90
宋14 河南新安縣梁庄北宋壁面墓	河南省洛陽市		1	八角形	磚	3.62	(3.66)	4.60	(2.02)	A	0.56	0.55	1.27	27%	有	頂部	a	ii	107
宋15 新安縣石寺李村北宋四部磚影壁墓	河南省洛陽市	靖康元年(1126年)	1	八角形	磚	(2.76)	(2.66)	3.75	(2.26)	A	0.82	0.85	1.36	30%	有	頂部	a	iv	100
宋16 洛陽瀋西軸承職工医院樓15號宋墓	河南省洛陽市		1	八角形	磚	2.67	2.60	2.65	(1.86)	A	0.7	0.72	0.99	18%	有	壁部	a	ii	108
宋17 洛陽洛龍區醜林廟宋代磚影壁M3	河南省洛陽市		1	八角形	磚	2.80	2.80	-	1.85	A	0.66	0.66	-	-	有	壁部	a	ii	106
宋18 河南新密市平陌宋代壁面墓	河南省新密市	大觀二年(1108年)	1	八角形	磚	2.36	(2.43)	(3.54)	(1.78)	A	0.75	0.73	1.5	14%	有	頂部	a	ii	84
宋19 河南登封城南庄宋代壁面墓	河南省登封市		1	八角形	磚	2.50	2.50	-	1.54	A	0.62	0.62	-	-	有	頂部	a	ii	86
宋20 河南登封縣山清水墓	河南省登封市		1	八角形	磚	2.45	(2.45)	3.45	1.35	A	0.55	0.55	1.41	29%	有	頂部	a	v	88
宋21 登封王上壁面墓	河南省登封市		1	八角形	磚	2.48	(2.48)	3.00	(1.83)	A	0.74	0.74	1.21	-	無	-	a	ii	89
宋22 河南登封唐庄宋墓M2	河南省登封市		1	六角形	磚	1.58	1.58	2.89	(1.40)	A	0.89	0.89	1.83	16%	有	頂部	a	iii	85
宋23 河南登封唐庄宋墓M3	河南省登封市		1	六角形	磚	2.60	2.60	4.45	1.22	B	0.47	0.47	1.33	-	有	頂部	a	ii	85
宋24 登封高村宋墓	河南省登封市		1	八角形	磚	2.40	2.40	-	(1.79)	A	0.75	0.75	-	-	有	頂部	a	ii	87
宋25 白沙宋墓M1	河南省許昌市	元符二年(1099年)	2	六角形	磚	(2.24)	(2.54)	(3.65)	(2.53)	A	1.13	1.00	1.63	18%	有	壁部	a	iii	63

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覽

墓の基礎情報				墓の主要の法量				主室の立面形状				椁木構造			壁面	文献		
墓名	所在地	年代	室数	主室形状	建材	奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷ 奥行	壁高 ÷ 横幅	全高 ÷ 奥行	分類	部材の有無	部材の位置	平面形状	
宋26 白沙宋墓M2	河南省許昌市		1	六角形	磚	(2.20)	(2.35)	3.79	(1.90)	A	0.86	0.81	1.72	I-2	有	頂部	a	63
宋27 白沙宋墓M3	河南省許昌市		1	六角形	磚	(2.11)	(2.18)	3.48	(1.70)	A	0.81	0.78	1.65	I-2	有	頂部	a	63
宋28 河南省鄧州市北宋趙宋壁面墓	河南省鄧州市	元祐元年(1086年)	1	六角形	磚	(2.37)	(2.48)	-	-	-	-	-	-	I-1	有	壁部	a	92
宋29 襄樊碧基山宋墓	湖北省襄陽市	崇寧三年(1104年)	1	八角形	磚	(3.03)	(3.02)	3.40	2.14	A	0.71	0.71	1.12	I-1	有	壁部	a	62
宋30 南京市太新路宋墓	江蘇省南京市		1	八角形	磚	2.87	2.87	-	(1.35)	B	0.47	0.47	-	I-1	有	壁部	a	93
金1 款漢旗小柳桑溝金墓	內蒙古赤峰市		1	八角形	磚	3.50	3.50	3.74	1.30	B	0.37	0.37	1.07	II	無	-	a	16
金2 內蒙古敖漢旗英屬溝金代墓地M1	內蒙古赤峰市		1	八角形	石	(3.62)	(3.87)	3.45	(1.80)	B	0.50	0.47	0.95	II	(無)	-	a	39
金3 遼寧朝陽金代紀年墓群M1	遼寧省朝陽市		1	六角形	磚	2.26	2.26	2.70	(1.87)	A	0.83	0.83	1.19	I-1	有	壁部	a	83
金4 山西孟縣泥河金代壁面墓	山西省陽泉市		1	八角形	磚	2.53	2.37	2.98	1.50	A	0.59	0.63	1.18	I-2	有	頂部	a	43
金5 山西孟縣皇后村宋金壁面墓	山西省陽泉市		1	八角形	磚	2.66	2.60	3.25	(2.32)	A	0.87	0.89	1.22	I-1	有	壁部	a	80
金6 山西陽泉古城金墓	山西省陽泉市		※1	八角形	磚	2.18	2.23	-	(2.02)	A	0.93	0.91	-	I-1	有	壁部	a (耳室)	101
金7 山西平定西閭村壁面墓M1	山西省陽泉市		1	八角形	磚	3.22	3.26	3.54	(2.00)	A	0.62	0.61	1.10	I-1	有	壁部	a	51
金8 山西平定西閭村壁面墓M2	山西省陽泉市		1	八角形	磚	3.00	2.90	-	(1.84)	A	0.61	0.63	-	I-1	有	壁部	a	51
金9 尖草坪區東張村金代墓群M2	山西省太原市		1	八角形	磚	2.50	2.54	(2.52)	(1.57)	A	0.63	0.62	1.01	I-1	有	壁部	a	98
金10 尖草坪區東張村金代墓群M3	山西省太原市		1	八角形	磚	2.30	2.80	(2.40)	(1.42)	A	0.62	0.51	1.04	I-1	有	壁部	a	98
金11 尖草坪區東張村金代墓群M4	山西省太原市		1	八角形	磚	2.36	2.64	3.18	(1.62)	A	0.69	0.61	1.35	I-1	有	壁部	a	98
金12 尖草坪區東張村金代墓群M5	山西省太原市		1	八角形	磚	2.16	2.10	(1.88)	(1.02)	B	0.47	0.49	0.87	I-1	有	壁部	a	98
金13 尖草坪區東張村金代墓群M7	山西省太原市		1	八角形	磚	2.30	2.40	2.50	1.50	A	0.65	0.63	1.09	I-1	有	壁部	a	98
金14 太原市王家莊金元壁面墓	山西省太原市		1	六角形	磚	1.70	2.30	(2.42)	(1.11)	A	0.65	0.48	1.42	I-1	有	壁部	a	71
金15 山西晉中晉白金墓	山西省晉中市		1	八角形	磚	2.54	2.30	3.00	(1.76)	A	0.69	0.77	1.18	I-1	有	壁部	a	46
金16 山西汾陽金墓M2	山西省汾陽市		1	六角形	磚	(2.64)	(2.56)	(3.52)	(2.22)	A	0.84	0.87	1.33	I-1	有	壁部	a	48
金17 山西汾陽金墓M5	山西省汾陽市		1	八角形	磚	(2.68)	(2.64)	(3.90)	2.70	A	1.01	1.02	1.46	I-1	有	壁部	a	48
金18 山西汾陽金墓M7	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.80	1.68	-	1.46	A	0.52	0.87	-	-	-	-	-	48
金19 山西汾陽東善觀宋金M2	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.90	2.87	(3.81)	(2.34)	A	0.81	0.82	1.31	I-1	有	壁部	a	50
金20 山西汾陽東善觀宋金M3	山西省汾陽市	大定元年(1161年)	1	八角形	磚	2.70	3.08	(2.12)	(2.12)	A	0.79	0.69	1.20	I-1	有	壁部	a	50
金21 山西汾陽東善觀宋金M5	山西省汾陽市	明昌六年(1195年)	1	八角形	磚	2.80	2.80	3.75	(1.96)	A	0.70	0.70	1.34	I-1	有	壁部	a	50
金22 山西汾陽東善觀宋金M6	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.30	2.30	(3.72)	(2.32)	A	1.01	1.01	1.62	I-1	有	壁部	a	50
金23 山西汾陽東善觀宋金M12	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.30	2.30	-	(1.62)	A	0.70	0.70	-	I-1	有	壁部	a	50
金24 山西汾陽東善觀宋金M13	山西省汾陽市		1	六角形	磚	1.38	1.66	(1.36)	(0.82)	A	0.59	0.49	0.99	I-1	有	壁部	a	50
金25 山西汾陽東善觀宋金M14	山西省汾陽市		1	六角形	磚	2.00	2.46	(2.41)	(0.75)	B	0.38	0.30	1.21	I-1	有	壁部	a	50

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覽

墓名	所在地	年代	室数	室形状	建材	墓の主要の法量				主室の立面形状			椁木構造			平面形状	壁画	文献
						奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷奥行	壁高 ÷横幅	全高 ÷奥行	部材の有無	全高に 占%			
金26 山西汾陽東韋韜宋金M15	山西省汾陽市		1	六角形	磚	1.90	2.16	-	1.14	A	0.60	0.53	-	有	-	壁部	a	50
金27 山西汾陽東韋韜宋金M16	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.20	2.16	(2.47)	(1.26)	B	0.57	0.5	1.12	有	15%	壁部	a	50
金28 山西汾陽東韋韜宋金M17	山西省汾陽市		1	六角形	磚	1.90	2.16	-	(0.96)	B	0.51	0.44	-	有	-	壁部	a	50
金29 山西汾陽東韋韜宋金M19	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.54	2.48	(3.27)	(1.39)	A	0.55	0.56	1.29	有	15%	壁部	a	50
金30 山西孝義下吐京金墓	山西省孝義市		1	八角形	磚	2.61	2.66	4.02	(2.39)	A	0.92	0.90	1.54	有	15%	壁部	a	iv
金31 山西汾陽東韋韜宋金M18	山西省臨汾市	大正二十二年(1912年)	1	八角形	磚	3.05	3.10	3.99	(2.51)	A	0.82	0.81	1.31	有	17%	壁部	a	ii
金32 山西沁州上庄金墓	山西省長治市		※1	八角形	磚	2.50	2.60	4.00	(2.47)	A	0.99	0.95	1.60	有	19%	壁部	a	(耳室) 45
金33 山西沁州金墓	山西省長治市		1	八角形	磚	3.20	2.85	3.50	1.35	B	0.42	0.47	1.09	有	15%	頂部	a	ii
金34 山西襄汾荆村溝金墓	山西省臨汾市		1	六角形	磚	2.40	2.89	3.5	(2.34)	A	0.98	0.81	1.46	有	-	-	a	iii
金35 山西襄汾上庄村金墓	山西省臨汾市		1	六角形	磚	2.02	2.40	3.25	-	A	-	-	1.61	有	-	-	a	44
金36 陝西甘泉柳河渠灣金代壁画墓	陕西省延安市	明昌七年(1196年)	1	八角形	磚	3.12	3.15	3.55	(2.09)	A	0.67	0.66	1.14	有	18%	壁部	a	ii
金37 河南安陽小任家庄金代磚影壁墓	河南省安陽市		1	八角形	磚	3.33	3.27	3.73	(2.42)	A	0.73	0.74	1.12	有	11%	壁部	a	ii
金38 鶴壁市東頭村金墓	河南省鶴壁市		1	八角形	磚	2.14	2.16	2.38	1.38	A	0.64	0.64	1.11	有	11%	壁部	a	ii
金39 河南修武大位金代雜劇磚影壁墓	河南省焦作市		1	六角形	磚	1.64	1.82	2.15	(1.37)	A	0.84	0.75	1.31	有	16%	壁部	a	ii
金40 洛陽城北金代磚影壁M1719	河南省洛陽市		1	八角形	磚	2.24	2.40	3.68	(2.02)	A	0.90	0.84	1.64	有	20%	頂部	b	ii
金41 許昌文峰路金墓M2	河南省許昌市		1	八角形	磚	(2.59)	(2.07)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	34
元1 多倫縣砬子山西區墓地DZXMI1	內蒙古錫林郭勒		1	六角形	磚	1.80	2.05	-	(0.58)	B	0.32	0.28	-	無	-	-	a	33
元2 多倫縣砬子山西區墓地DZXMI2	內蒙古錫林郭勒		1	六角形	磚	1.48	1.76	-	(0.48)	B	0.32	0.27	-	無	-	-	a	33
元3 河北涿州元代壁画墓	河北省保定市	至順二年(1331年)	1	八角形	磚	3.64	3.06	3.25	(1.89)	A	0.52	0.62	0.89	有	7%	壁部	a	v
元4 石家莊市後太保元代史氏墓群M1	河北省石家莊市		3	八角形	磚	5.30	5.30	-	(3.11)	A	0.59	0.59	-	有	-	壁部	a	28
元5 石家莊市後太保元代史氏墓群M3	河北省石家莊市		1	六角形	磚	4.00	(4.55)	-	(1.97)	B	0.49	0.43	-	有	-	壁部	a	28
元6 山西朔州官地元代壁画墓M1	山西省朔州市		1	八角形	磚	3.00	3.03	-	1.50	A	0.50	0.50	-	有	-	壁部	b	v
元7 山西興縣紅峪村元至大二年壁画墓	山西省吕梁市	至大二年(1309年)	1	八角形	石	2.04	2.04	(2.35)	(1.41)	A	0.69	0.69	1.15	有	-	壁部	a	iv
元8 山西陽泉村元墓	山西省陽泉市		1	八角形	磚	2.76	2.66	3.10	(1.71)	A	0.62	0.64	1.12	有	26%	壁部	a	iv
元9 古交市河下村元墓	山西省古交市		1	八角形	石	(2.92)	(2.80)	2.49	1.30	B	0.45	0.46	0.85	有	15%	壁部	b	-
元10 太原西南郊黃坡村元墓	山西省太原市	大德十年(1306年)	1	八角形	磚	2.00	2.27	2.25	-	-	-	-	1.13	-	-	-	-	52
元11 太原剛玉五一生活区元代墓群M1	山西省太原市		1	八角形	磚	2.46	2.52	-	1.00	B	0.41	0.40	-	有	-	壁部	a	v
元12 太原剛玉五一生活区元代墓群M2	山西省太原市		1	六角形	磚	1.42	1.9	-	0.67	B	0.47	0.35	-	有	-	壁部	a	37
元13 太原剛玉五一生活区元代墓群M3	山西省太原市		1	八角形	磚	2.40	2.40	-	0.80	B	0.33	0.333	-	有	-	壁部	a	-
元14 山西太原原蒲源區明太原原城元代壁画墓M5	山西省太原市		1	六角形	磚	2.60	3.30	-	1.30	B	0.50	0.39	-	有	-	壁部	a	v

表1 唐末・遼・宋・金・元の多角形墓室一覧

墓名	墓の基礎情報			墓の主室の法量				主室の立面形状				椁木構造			壁面 形状	文献			
	所在地	年代	室数	主室形状	建材	奥行	横幅	全高	壁高	分類	壁高 ÷奥行	壁高 ÷横幅	全高 ÷奥行	分類			部材の有無	全高に 占%	部材の位置
元15 山西太原晋源区明太原唐城元代壁画墓M7	山西省太原市	至元元年(1335年)	1	六角形	磚	2.86	3.24	-	1.44	B	0.50	0.44	-	I-1	有	-	壁部	a	70
元16 山西医科大学汾陽学院墓地M16	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.36	1.94	(2.66)	(1.12)	B	0.47	0.58	1.13	I-1	有	15%	壁部	a	119
元17 山西医科大学汾陽学院墓地M23	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.35	2.20	(2.01)	(0.97)	B	0.41	0.44	0.86	I-1	有	3%	壁部	a	119
元18 山西汾陽東董觀宋金M18	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.02	2.00	(2.22)	(1.20)	A	0.59	0.60	1.10	I-1	有	20%	壁部	b	50
元19 山西汾陽東董觀宋金M28	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.40	2.06	-	(1.03)	B	0.43	0.50	-	I-1	有	-	壁部	a	50
元20 山西汾陽東董觀宋金M29	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.16	2.18	(2.65)	(1.26)	A	0.58	0.58	1.23	I-1	有	17%	壁部	a	50
元21 山西汾陽東董觀宋金M30	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.00	2.00	(2.15)	(1.15)	A	0.58	0.58	1.08	I-1	有	14%	壁部	a	50
元22 山西汾陽東董觀宋金M31	山西省汾陽市		1	六角形	磚	1.44	1.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	50
元23 山西汾陽東董觀宋金M34	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.20	2.36	(1.77)	(0.75)	B	0.34	0.32	0.80	I-1	有	14%	壁部	a	50
元24 山西汾陽東董觀宋金M37	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.20	2.00	(2.50)	(1.26)	A	0.57	0.63	1.14	I-1	有	19%	壁部	a	50
元25 山西汾陽東董觀宋金M38	山西省汾陽市		1	八角形	磚	2.16	1.72	(2.07)	(1.03)	B	0.48	0.60	0.96	I-1	有	26%	壁部	a	50
元26 山西孝義下吐京元墓	山西省孝義市		1	六角形	磚	2.08	2.36	(2.39)	(1.15)	B	0.55	0.49	1.15	I-1	有	16%	壁部	a	iv
元27 山西孝義梁家庄元墓	山西省孝義市		1	八角形	磚	2.60	2.76	2.60	(1.81)	A	0.70	0.66	1.00	I-1	有	23%	壁部	a	53
元28 山西洪洞西孔村元代地震紀年墓	山西省臨汾市	至正十一年(1351年)	1	八角形	磚	2.50	2.50	(3.00)	(2.13)	A	0.85	0.85	1.20	I-1	有	24%	壁部	a	ii
元29 山西芮城永樂宮旧址潘德冲墓	山西省運城市		1	六角形	磚	2.99	3.20	3.56	1.44	B	0.48	0.45	1.19	-	-	-	-	a	54
元30 陝西橫山羅圪塔村元代壁画墓	陝西省榆林市		1	八角形	石	2.30	2.24	2.80	1.00	B	0.43	0.45	1.22	II	無	-	-	a	iv
元31 洛陽伊川元墓YM4	河南省洛陽市		1	八角形	磚	2.70	2.70	2.86	0.98	B	0.36	0.36	1.10	I-1	有	3%	壁部	a	205

※1 主室は1室のみ、複数の耳室が付属する。

※2 各「分類」項目の詳細については図1および第2章を参照。

※3 数値のうち () は筆者が報告図面を用いて計測した値。

※4 灰色のマスは六角形墓室を示す

※5 「-」は調査報告の文中に記載がなく、かつ図面も掲載されていないため、計測不可な箇所。

※6 「文献」番号は引用文献【発掘報告】に対応。